

### III 教育内容

#### 令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	哲学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<b>《科目目標》</b> 物事の根本原理についての価値・見方・考え方を理解し、生命の尊厳、人間尊重、倫理観に基づいた行動や思考ができる基礎を養う					
<b>《成績評価の方法》</b> レポート及び筆記試験					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> はじめて出会う生命倫理 有斐閣					
<b>《授業外における学習方法》</b> 自己学習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	生命倫理の歴史と日本への導入			講義
2	2	生殖補助技術、出生前診断のもたらす問い			講義
3	2	診療と研究参加のインフォームドコンセント			講義
4	2	患者主体の医療、介護される者の自己決定			講義
5	2	ホスピス、緩和ケア、安楽死、尊厳死をめぐる倫理問題			講義
6	2	再生医療をめぐる倫理問題			講義
7	2	エンハンスメントと新優生学、脳神経倫理			講義
8	1	医療資源の配分と倫理			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	論理学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 論理的道筋に沿った思考の形成及び構造を理解し、論理的思考法を身につける					
<<成績評価の方法>> レポート					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 随時参考文献提示					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	論理的思考・資料の批判的読解			講義
2	2	数量表現の扱い			講義
3	2	広告の表現			講義
4	2	相関と因果			講義
5	2	誇大な表現			講義
6	2	論説文の読みとり			講義
7	2	論理的表現の作成			講義
8	1	論理的表現の読解			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	情報科学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>情報と情報処理の基本的な考え方や方法を理解し、看護実践や看護研究に生かすための情報収集と整理・活用方法を習得する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>課題提出及び筆記試験、実技テスト</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>随時参考文献提示</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>視聴覚室で授業を行う。各自 USB (2GB 程度) を持参すること。プロジェクターを準備する。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	基本操作 キーボードとマウス、日本語入力、強制終了			講義・演習
2	2	レイアウト機能とコンピューターウイルス			講義・演習
3	2	SNS 講習、情報リテラシーとコンピューターリテラシー			講義・演習
4	2	タイトルロゴとテキストボックス			講義・演習
5	2	図形描写と段組み、ヘッダーとフッター			講義・演習
6	2	パワーポイントとアニメーション			講義・演習
7	2	パワーポイントのテクニックと文献検索			講義・演習
8	2	エクセルグラフ			講義・演習
9	2	相対、参照、絶対参照			講義・演習
10	2	基本的な関数と電子カルテ			講義・演習
11	2	If と Lookup			講義・演習
12	2	串刺し算、パソコンの基本的構造			講義・演習
13	2	データベース			講義・演習
14	2	統計の基本			講義・演習
15	2	まとめと実技テスト			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	教育学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>目的：教育学は「人間とは何か」「人間はどう生きるべきか」という問いから出発し、人間社会に固有な営みとしての教育のあり方を探究してきた。本授業では、教育学の基本的な考え方を学びつつ、教育に関わる様々な事象を主体的かつ批判的に考える力を身につけることを目指す。</p> <p>目標：①成長・発達への教育の影響および人間にとっての教育の意義を理解する                  ②看護における教育的役割を実践するための基礎的知識を理解する                  ③専門職業人として主体的に生涯学習を行う必要性を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・授業への参加状況</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>看護のための教育学 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》 自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業は主に講義形式で進めるが、グループワーク等も行う予定です。また、教科書の内容にかかわらず、教育学の理解に必要と思われるトピックも適宜扱っていきます。「授業への参加状況」の評価については、毎回の授業後に、アクションペーパーの提出を課すことを予定しています。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	なぜ教育学を学ぶのか？－人間理解と教育			講義
2	2	看護師としての学習とキャリア開発			講義
3	2	発達と教育 1			講義
4	2	発達と教育 2			講義
5	2	教育の歴史と制度 1			講義
6	2	教育の歴史と制度 2			講義
7	2	特別なニーズをもつ子どもと向き合う 1			講義
8	2	特別なニーズをもつ子どもと向き合う 2			講義
9	2	学校は監獄か？－近代学校批判とエンパワーメントの教育			講義
10	2	患者指導に向けて－指導の基本と工夫			講義
11	2	集団指導 1			講義
12	2	集団指導 2			講義
13	2	教育とケア 1			講義
14	2	教育とケア 2			講義
15	2	授業まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	国文学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>文学作品の表現の考察を通して、時代の変化や日本人の生き方を理解するとともに、看護学生、社会人に必要な言葉の知識を増やし、文章作成能力の向上を目的とする。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>レポート及び筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>随時参考文献提示</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	グリム童話「灰かぶり」			講義
2	2	芥川龍之介の妻と手紙①			講義
3	2	芥川龍之介の妻と手紙②			講義
4	2	ハンセン病の歴史と文学			講義
5	2	北条民雄「いのちの初夜」①			講義
6	2	北条民雄「いのちの初夜」②			講義
7	2	結核の文学史①			講義
8	2	結核の文学史②			講義
9	2	結核の文学史③			講義
10	2	「伝記調べ」発表①			講義
11	2	「伝記調べ」発表②			講義
12	2	「伝記調べ」発表③			講義
13	2	文章の書き方①			講義
14	2	文章の書き方②			講義
15	2	文章の書き方③			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	社会学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 社会的存在「である人間を理解するとともに、地域社会での生活システムの中で生活している人間を理解する					
<<成績評価の方法>> レポート					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 随時参考文献					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	I. 明治民法の家族法 明治民法の家族制度と女性 明治民法			講義
2	2	I. 明治民法の家族法 明治民法の家制度と女性 法律適用の男女差			講義
3	2	I. 明治民法の家族法 新しい女性の登場と家族法			講義
4	2	I. 明治民法の家族法 戦後改革と家族法			講義
5	2	II. 現代社会における家族 家族とは、家族の変容、前近代家族			講義
6	2	II. 現代社会における家族 家族の変容、近代家族、現代家族			講義
7	2	III. 結婚 結婚とは、変化する結婚			講義
8	2	III. 結婚 法律婚と非法律婚、夫婦別性選択制			講義
9	2	III. 結婚 夫婦同氏と戸籍 IV. 離婚 実離婚の実態			講義
10	2	IV. 離婚 離婚の法制度			講義
11	2	IV. 離婚 判例変更			講義
12	2	プレゼンテーション			講義
13	2	プレゼンテーション			講義
14	2	プレゼンテーション			講義
15	2	プレゼンテーション			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	生物と環境	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>生物としての人間が環境を離れては存在しえないことを理解し、環境保全への努力が心身のトータルな健康的な生活へ至る重要項であることを学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>随時参考文献提示</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	生物多様性の意味と生態系の多様性			講義
2	2	種の多様性と生物の進化			講義
3	2	遺伝子の多様性の重要性			講義
4	2	生物多様性と人間社会：生態系サービス、生物多様性条約、SDGs について			講義
5	2	世界の動物地理：世界の動物分布の成り立ちと各動物地理区の特徴			講義
6	2	日本の動物地理：旧北区の日本列島と東洋区の琉球列島の比較			講義
7	2	ユニークで豊かなあいち/東海地方の生物相			講義
8	2	在来の自然を変える外来生物			講義
9	2	日本の野外の危険生物や有毒生物の生態			講義
10	2	生態系のしくみとはたらき			講義
11	2	近年の生態系の攪乱による環境破壊：地球温暖化、プラスチック汚染			講義
12	2	世界と日本の植生の水平分布と垂直分布			講義
13	2	植生遷移と近年注目されている中規模攪乱の重要性			講義
14	2	生物種の種間関係：生体的地位の概念、種間競争、棲み分け、強制、寄生、ベイツ型擬態、ミューラ型擬態			講義
15	2	種内における個体間関係：なわばり制、リーダーシップ性、家族関係 etc			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人間関係論	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>人間関係に関する基礎理論及び良好な人間関係を築くためのスキルを、講義・演習を通して学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>随時参考文献提示</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	オリエンテーション フォースド・チョイス			講義・演習
2	2	ポジティブ思考と自尊感情			講義・演習
3	2	これまでの出来事を意味づける			講義・演習
4	2	自己効力感			講義・演習
5	2	効果的なコミュニケーション			講義・演習
6	2	自己概念			講義・演習
7	2	積極的傾聴「きく」			講義・演習
8	2	アサーション			講義・演習
9	2	コンテンツとプロセス「おもしろ村」			講義・演習
10	2	リーダーシップ「看護師という人生で大切なもの」			講義・演習
11	2	グループプロセスの諸要素「タワービルディング」			講義・演習
12	2	「人の尊厳を大切にするとはい」			講義・演習
13	2	「あなたならどうする？」			講義・演習
14	2	コーチング			講義・演習
15	2	ロールプレイ			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	心理学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 人間の心理を理解するために必要な基礎的な事項について学ぶ					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 改訂 現代心理学の基礎と応用 ―人間理解と対人援助― 樹村房					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	心理学とは①(動機は何か)			講義
2	2	心理学とは②(看護の心)			講義
3	2	人間理解とは			講義
4	2	感覚、知覚の心理			講義
5	2	記憶の心理			講義
6	2	感情・動機の心理、知能の心理			講義
7	2	性格、知能の心理①(理論)			講義
8	2	性格、知能の心理② (心理検査、性格検査)			講義
9	2	現代社会とストレス、感情、情緒など			講義
10	2	現代社会とストレス：日常的ストレス、中間確認テスト			講義
11	2	現代社会とストレス：ストレス反応、ストレスチェック			講義
12	2	発達心理			講義
13	2	社会心理			講義
14	2	カウンセリング			講義
15	2	まとめ			講義

### III 教育内容

#### 令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	哲学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<b>《科目目標》</b> 物事の根本原理についての価値・見方・考え方を理解し、生命の尊厳、人間尊重、倫理観に基づいた行動や思考ができる基礎を養う					
<b>《成績評価の方法》</b> レポート及び筆記試験					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> はじめて出会う生命倫理 有斐閣					
<b>《授業外における学習方法》</b> 自己学習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	生命倫理の歴史と日本への導入			講義
2	2	生殖補助技術、出生前診断のもたらす問い			講義
3	2	診療と研究参加のインフォームドコンセント			講義
4	2	患者主体の医療、介護される者の自己決定			講義
5	2	ホスピス、緩和ケア、安楽死、尊厳死をめぐる倫理問題			講義
6	2	再生医療をめぐる倫理問題			講義
7	2	エンハンスメントと新優生学、脳神経倫理			講義
8	1	医療資源の配分と倫理			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	論理学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年前期
担当教員： 非常勤講師					
≪科目目標≫ 論理的道筋に沿った思考の形成及び構造を理解し、論理的思考法を身につける					
≪成績評価の方法≫ レポート					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ 随時参考文献提示					
≪授業外における学習方法≫ 自己学習					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	論理的思考・資料の批判的読解			講義
2	2	数量表現の扱い			講義
3	2	広告の表現			講義
4	2	相関と因果			講義
5	2	誇大な表現			講義
6	2	論説文の読みとり			講義
7	2	論理的表現の作成			講義
8	1	論理的表現の読解			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	スポーツ科学 I	科目区分	基礎分野	授業の方法	実技
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
≪科目目標≫ スポーツを通して、心身のバランスをとり、自己の健康・体力を保持増進する					
≪成績評価の方法≫ 実技試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 随時参考文献提示					
≪授業外における学習方法≫ 自己学習					
≪履修に当たっての留意点≫ 運動ができる服装：トレーニングウェア、室内運動靴 髪は縛るかまとめること 体育館で授業を行う					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	バレーボール			実技
2	2	卓球・バレーボール			実技
3	2	卓球・バレーボール			実技
4	2	卓球・バレーボール			実技
5	2	卓球・バレーボール			実技
6	2	卓球・ドッチボール			実技
7	2	卓球・ドッチボール			実技
8	1	体力測定			実技

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>身体運動と健康のかかわりを科学的に理解し、生活に対応する運動のあり方を身につける。「体力について」「体力を測定評価」という2点に着目して授業をすすめる。健康・体力とは何かについて理解することを目的とする。そして、今の自分の体力を測定するとともに自己と比較してどうなのか正しく比較・検討できること(測定→集計→評価)を目的とする。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験の点数80%と授業内の活動点(レポート)20%で評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>教科書は指定せず、授業内で配布するプリントで授業をすすめる。</p> <p>参考書(購入義務なし)</p> <p>① スポーツ測定評価学—からだの形と働きを測る 文化書房博文社</p> <p>② 新体力テスト—有意義な活用のために ぎょうせい</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業内で説明する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業内での演習や作業があるのでできるだけ全出席を目指してください。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	1	体力と健康の概念～健康とは何か？体力とは何か？～			講義
2	2	新体力テストを実施			演習
3	2	新体力テストの結果分析			講義
4	2	持久系運動能力の評価① (vo2max、酸素摂取量、RMR、基礎代謝量)			講義
5	2	持久系運動能力の評価② (Met、Ex)			講義
6	2	スポーツと突然死			演習
7	2	測定実習 (歩行・走行パフォーマンスの計測)			演習
8	2	まとめ、復習			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	英語	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 日常生活及び看護の場面に必要な英語の会話力を身につける					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ホスピタルイングリッシュ Vital Signs (改訂版) 南雲堂					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	自己紹介、ネームカードの作成、授業内容と方法についての説明			講義
2	2	Unit1 Listening, Translation, Reading practice, II check Your Understnading			講義
3	2	Unit1 QuizNo.1 III Look At This Role play			講義
4	2	Unit 1 QuizNo.2 V substitution. VI Do you know? Unit 2 Listening Translation			講義
5	2	Unit2 QuizNo.3 Reading practice, Role play, III Look At This			講義
6	2	Unit2 QuizNo.4 IV Controlled Practice Unit3 Listening			講義
7	2	Unit3 QuizNo.5 Translation, Reading practice, III Look At this			講義
8	2	Unit3 QuizNo.6 Role play, IV Controlled Practice			講義
9	2	Unit4 Listening, Translation, Reading practice, III Look At this			講義
10	2	Unit4 Role play, IV Controlled Practicel. V Substitution			講義
11	2	Unit5 QuizNo7, Listening, Translation, III Look At This			講義
12	2	Unit5 QuizNo8, Role play, VI Do you know? VII Time Out			講義
13	2	Unit6 QuizNo9, Listening, Translation, Reading practice, III Look At This			講義
14	2	Unit6 QuizNo10 Role play, IV Controlled Practice			講義
15	2	Unit7 III Look At This, Unit1~7 のまとめと期末テストについて			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	ポルトガル語	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>日常生活に使われる基本的会話と発音を身につける 異文化との交流をとおして国際化に対応する基本的な能力を養う</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、小テスト</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>『Descobrimos o Brasil』 ブラジル・ポルトガル語入門 同学社 必要に応じて、補助プリントを配布</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>各回の授業内容をこまめに復習すること。また、宿題(練習問題)をとくことで学習内容が理解できているか確認しておくこと。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>初めて学習する言語であるため、自宅での学習が必要です。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ブラジルの文化と生活			講義
2	2	ポルトガル語の文字と発音			講義
3	2	ポルトガル語の名詞の特徴、あいさつ			講義
4	2	Ser 動詞の活用と用法			講義
5	2	形容詞とその特徴			講義
6	2	自己紹介、自分以外の人を紹介する練習、受付での会話			講義
7	2	-ar、-er、-ir 動詞(規則活用変化動詞、現在形)の活用の仕方と使い方と前置詞			講義
8	2	命令・禁止の表現			講義
9	2	Estar 動詞の活用とその使い方 estar com～で肉体的・精神的な状態を表す			講義
10	2	体の部位や症状の表現			講義
11	2	○が欲しい/○がしたい			講義
12	2	数詞・日付の表現			講義
13	2	数詞・時間の表現、TER 動詞(所有・年齢・義務を表す)①			講義
14	2	TER 動詞(所有・年齢・義務を表す)② ベッドサイドにおける簡単な会話			講義
15	2	まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	文化人類学	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>異文化における人々の生活習慣、健康・病気についての考え方を学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>随時参考文献提示</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前に教材等を予習しておく。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業時には毎回、小レポートを実施します。感想・意見・疑問など何でもかまわないので、受講者の積極的な参加を期待します。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	人間と文化			講義
2	2	人生とコミュニケーションの文化			講義
3	2	文化・宗教と消費社会・世界観			講義
4	2	命と文化			講義
5	2	健康と文化			講義
6	2	生命にかかわる地域文化			講義
7	2	多文化社会と共生			講義
8	1	まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能 I (細胞・内分泌)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能を理解する。特に細胞の機能と構造、諸臓器・組織の内部環境の調節、外部環境の防御について理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 ②生物のしくみ標準テキスト 第3版 新しい解剖整理 医学映像教育センター</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 人体を学ぶために基礎知識 1)解剖学的用語 2)細胞と組織			講義
2	2				講義
3	2				講義
4	2	2. 内臓機能の調節 1)自律神経による調節 2)内分泌による調節 3)内分泌系（視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎） 4)ホルモン分泌の調整			講義
5	2				講義
6	2				講義
7	2				講義
8	2	3. 身体機能の防御と適応 1)皮膚の構造と機能 2)免疫系（生体の防御機構） 3)体温とその調節			講義
9	2				講義
10	2				講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能 I (生殖)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な生殖器の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：人間の生命の誕生に興味をもち、人の生殖機能についての知識を深め、子孫を残す仕組みについて理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版</p> <p>②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p> <p>参考図書：系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	遺伝による男性と女性			講義
2	2	生殖器の構造			講義
3	2	生殖を支えるホルモン			講義
4	2	性交と受精			講義
5	2	出産			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅱ(呼吸)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な呼吸器の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：換気・ガス交換・呼吸調節に関わる呼吸器の構造と機能を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版</p> <p>②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>毎回授業開始時に前回の講義内容の小テストを行います。必ず復習をしておきましょう。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前学習・事後学習も行っていくきましょう。</p> <p>分からないこと、初めて聞く言葉等はテキストや参考図書を活用して調べましょう。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	呼吸器のしくみ 胸部の構造			講義
2	2	上気道・下気道の構造 上気道の機能			講義
3	2	下気道と肺胞の構造 生体防御機構			講義
4	2	呼吸運動			講義
5	2	換気 ガス交換とガス運搬			講義
6	2	呼吸の調整 呼吸パターン			講義
7	2	呼吸器と酸塩基平衡			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅱ (循環器・血液)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な循環器・血液の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：1. 血液の組成およびそれぞれの働きを理解する</p> <p>2. 生体内の物質の流通路としての心臓・血管系の構造とその役割を理解する</p> <p>3. 一般社会、医療の中で生体情報として用いられる血圧についてその意味と調節機構を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版</p> <p>②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	血液の組成と機能 血球とその機能 (赤血球)			講義
2	2	血球とその機能 (白血球、血小板と血液凝固、血栓溶解)			講義
3	2	血液型			講義
4	2	心臓の構造			講義
5	2	心臓の機能 血管と循環 (血管の形態、主要な動脈・静脈と門脈系)			講義
6	2	血管と循環 (血管の機能)			講義
7	2	リンパ系 復習 (グループワーク)			講義
8	2	復習 (発表)			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅲ (消化器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能について理解する。</p> <p>学習目標：摂取した食物がどのように消化吸收し、そして利用されるのか、消化器系の構造と機能を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版</p> <p>②生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
《授業外における学習方法》					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>講義内容を事前に把握してテキスト等で学習し臨んでください。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	消化管の構造 口腔・唾液腺の構造・咀嚼について			講義
2	2	咽頭・食道の構造と機能・嚥下のメカニズム			講義
3	2	胃の構造と機能			講義
4	2	小腸・膵臓の構造と機能			講義
5	2	栄養素の消化と吸収 腹膜			講義
6	2	大腸の構造と機能・排便のメカニズム			講義
7	2	肝臓・胆嚢の構造と機能			講義
8	2	・食べる（①口～胃まで）（②十二指腸～小腸 消化・吸収） ・排便する（メカニズム含む） グループワーク			講義
9	2	・食べる（①口～胃まで）（②消化・吸収） ・排便する（メカニズム含む） 発表			GW
10	2	食べたものが身体でどのような経過をたどるか人体の構造を考えてまとめる			個人ワーク

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅲ (腎泌尿器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：体液を調整する役割を果たす腎臓の機能・尿排泄の仕組みを理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版</p> <p>生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ガイダンス・腎泌尿器の概要			講義
2	2	腎臓・糸球体の構造と機能			講義
3	2	尿細管の構造と機能・傍糸球体装置			講義
4	2	排尿路・排尿の生理			講義
5	2	体液の調節・酸塩基平衡・まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能IV (脳神経)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践するために必要な脳神経の構造と機能について理解する。 また、生活の中で外部からの刺激を受け止める感覚系の役割について理解する。</p> <p>学習目標：生体の情報を感知し、発信しながら生体の環境適応を可能にし、恒常性を維持する脳・神経系と感覚器の構造と機能を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版 ②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	神経系の構造と機能 神経系の分類、神経系の構造、中枢神経と末梢神経、 神経細胞・支持細胞とは			講義
2	2	ニューロンでの興奮と伝達とシナプスでの興奮の伝達			講義
3	2	中枢神経の構造と機能 1 大脳の構造			講義
4	2	中枢神経の構造と機能 2 大脳の機能			講義
5	2	中枢神経の構造と機能 3 間脳の構造と機能 脳幹の構造と機能 小脳の構造と機能			講義
6	2	中枢神経の構造と機能 4 脊髄の構造と機能 (脊髄反射)			講義
7	2	中枢神経系を守る組織と機能 髄膜、脳室と脳脊髄液、脳の血管と血液脳関門			講義
8	2	末梢神経系の構造と機能 1 脳神経			講義
9	2	末梢神経系の構造と機能 2 脊髄神経			講義
10	2	伝導路と生体のリズム 伝導路・睡眠と覚醒			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅳ(感覚器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践するために必要な脳神経の構造と機能について理解する。 また、生活の中で外部からの刺激を受け止める感覚系の役割について理解する。</p> <p>学習目標：生体の情報を感知し、発信しながら生体の環境適応を可能にし、恒常性を維持する脳・神経系と感覚器の構造と機能を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版 ②生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	感覚器系の構造と機能 1. 眼の構造と機能			講義
2	2	2. 耳の構造と機能			講義
3	2	3. 味覚・嗅覚			講義
4	2	4. 痛覚			講義
5	2	5. 体性感覚と内臓感覚			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅴ	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：看護師が看護実践をするために必要な人体の構造と機能について理解する</p> <p>学習目標：私たちの体は中枢神経の指令を受けて動き、移動し、様々な活動を行いながら日常生活を営んでいる。この体を支え、運動し、活動を行う骨格や筋肉の構造と機能を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>①ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版</p> <p>②生物のしくみ標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>毎回予習をして、授業の臨んでください。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	体を動かす仕組み①：骨の構造と種類、働き			講義
2	2	体を動かす仕組み②：関節の構造と種類			講義
3	2	体を動かす仕組み③：筋の構造と種類、働き			講義
4	2	体を動かす仕組み④：筋収縮のエネルギー代謝			講義
5	2	「姿勢を保つ」骨・関節と筋肉			講義
6	2	「腕を動かす」骨・関節と筋肉			講義
7	2	「足を動かす」骨・関節と筋肉			講義
8	1	「顔」の骨・関節と筋肉			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護における人体の構造と機能	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：日常生活行動の視点から人体の構造と機能を統合し、看護に活かすことができるよう探求することができる。</p> <p>学習目標：1. 人体の構造と機能の知識を根拠に、日常生活行動が理解できる。 2. 看護援助を解剖生理学的な視点から考えることができる。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>演習への取り組み姿勢・発表・レポートを総合的に評価（ルーブリック）</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>① 看護につなぐ 人体の構造と機能 照林社 ② ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版 ③ 生体のしくみ 標準テキスト 第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>研究テーマを意識しながら、人体の構造と機能の講義を受ける。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>グループワークが主体となるため、協力した取り組みが必要となる。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	1	看護につなげる人体の構造と機能について 授業の進め方、評価の方法についてのガイダンス			講義
2	2	探求するテーマについての調べ学習（個人学習） 既習した人体の構造と機能の授業内容を、人間の生活行動から見直し、日常生活援助につなげて考えていく。			個人ワーク
3	2	探求するテーマについての調べ学習（個人学習）			個人ワーク
4	2	グループで探求したい内容を決めて、調べ学習 グループでテーマに沿った疑問を出し、解剖生理学の知識を根拠として解決に向けて調べていく。			演習
5	2	発表に向けて準備（調べ学習）			演習
6	2	プレゼンテーション資料の作成 他者に、いかに分かりやすく伝えることができるのか、そのための資料等の作成をする。			演習
7	2	テーマごとの発表と学びの共有（グループごとの発表）			演習
8	2	疑問解決に至った、人体の構造と機能の知識を再確認する。			演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	微生物学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 微生物の特徴を知り、感染を予防することと、人体への影響を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	微生物の種類と特徴、細菌の性質、細菌培養実験			講義
2	2	ウイルスの性質、真菌の性質			講義
3	2	感染と感染症			講義
4	2	感染に対する生体防御機構			講義
5	2	滅菌と消毒			講義
6	2	感染症の検査と治療			講義
7	2	感染症の現状と対策			講義
8	2	病原細菌と細菌感染症①			講義
9	2	病原細菌と細菌感染症②			講義
10	2	病原細菌と細菌感染症③			講義
11	2	病原ウイルスとウイルス感染症①			講義
12	2	病原ウイルスとウイルス感染症②			講義
13	2	病原ウイルスとウイルス感染症③			講義
14	2	病原真菌と真菌感染症			講義
15	2	寄生虫と衛生動物、微生物学に関連した看護師国家試験問題紹介			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・腫瘍・免疫について基礎的な知識を学び、健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	病理診断の実際			講義
2	2	病理学で学ぶこと (内因・外因)			講義
3	2	先天異常と遺伝性疾患			講義
4	2	循環障害①			講義
5	2	循環障害②			講義
6	2	腫瘍①			講義
7	2	腫瘍②			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	病理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 人体に起こる病因と病変のうち、循環障害・炎症・腫瘍・免疫について基礎的な知識を学び、健康水準や健康障害の特徴・進行の過程、病理検査を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座:疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	老化と死、感染症			講義
2	2	生活環境と環境因子による生体の障害			講義
3	2	細胞、組織の障害と修復			講義
4	2	炎症について①			講義
5	2	炎症について②			講義
6	2	免疫①			講義
7	2	免疫②、感染症			講義
8	2	代謝異常			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療 I (脳神経系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>脳神経の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑤ 脳・神経 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	脳神経の解剖、意識障害、頭部外傷			講義
2	2	脳梗塞、TIA(一過性脳虚血発作)、脳出血、片頭痛			講義
3	2	クモ膜下出血、髄膜炎、てんかん、神経痛、顔面神経麻痺、ALS 他			講義
4	2	パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症他			講義
5	2	認知症、多発性硬化症、重症筋無力症、モヤモヤ病			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療 I (呼吸器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 呼吸器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護① 呼吸器 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	呼吸器疾患の症状			講義
2	2	感染症について			講義
3	2	結核について			講義
4	2	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) について			講義
5	2	肺がんについて			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療 I (循環器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>循環器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護② 循環器 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	循環器疾患を学ぶにあたっての基礎知識 (異常からの症候)			講義
2	2	不整脈			講義
3	2	高血圧			講義
4	2	心不全			講義
5	2	虚血性心疾患			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ(消化器系)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>消化器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護③ 消化器 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	消化器の構造と機能			講義
2	2	食道疾患、胃疾患			講義
3	2	小腸・大腸疾患、胃ろう			講義
4	2	肝臓の疾患について			講義
5	2	胆嚢、膵臓の疾患について			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ (代謝・内分泌)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>代謝・内分泌の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	内分泌総論、下垂体の疾患			講義
2	2	甲状腺、副甲状腺の疾患			講義
3	2	副腎の疾患、内分泌救急			講義
4	2	内分泌・代謝疾患について①			講義
5	2	内分泌・代謝疾患について②			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅱ(血液・造血器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>血液・造血器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概要を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護④ 血液/アレルギー・膠原病/感染症 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	白血病			講義
2	2	悪性リンパ腫			講義
3	2	血液、輸血、造血幹細胞移植			講義
4	2	血小板、凝固異常			講義
5	2	多発性骨髄腫、造血不全			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ(腎臓)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 腎臓の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	腎臓の構造と働き			講義
2	2	尿異常、水・電解質など			講義
3	2	腎泌尿器系疾患ほか			講義
4	2	腎不全、腎疾患ほか			講義
5	2	問題、演習			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ(泌尿器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>泌尿器の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>自己学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	尿路感染症			講義
2	2	尿路結石症、排尿管理			講義
3	2	尿路の通過傷害と機能障害			講義
4	2	尿路、性器の腫瘍①			講義
5	2	尿路、性器の腫瘍②			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅲ(運動器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 骨・関節の構造や機能を踏まえ、代表的な健康障害を病態生理学的に理解し、検査治療の概念を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑦ 運動器 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	運動器について、骨折について			講義
2	2	外傷疾患とその看護			講義
3	2	関節リウマチとその看護			講義
4	2	関節疾患の看護			講義
5	2	脊椎疾患			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ(言語療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 運動障害や高次機能障害に対する言語療法の特徴と生体の反応を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	言語聴覚療法概論 嚥下のメカニズム			講義
2	2	嚥下評価、間接訓練			講義
3	2	嚥下直接訓練、聴覚障害			講義
4	2	高次脳機能障害			講義
5	2	失語症・構音障害			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ(作業療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 運動障害や高次機能障害に対する作業療法の特徴と生体の反応を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	作業療法についての概論			講義
2	2	作業療法の実際① 食事、ADL・IADL			講義
3	2	作業療法の実際② 排泄、更衣、整容、入浴動作			講義
4	2	作業療法の実際③ 起居・移乗・移動			講義
5	2	作業療法の実際④ ADL評価法、作業療法と看護の連携			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅳ(理学療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 運動障害や高次機能障害に対する理学療法の特徴と生体の反応を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	リハビリテーションの概論と基礎			講義
2	2	運動器系の障害とリハビリテーション			講義
3	2	杖・車椅子の操作実習			演習
4	2	中枢神経障害のリハビリテーション			講義
5	2	呼吸器系障害のリハビリテーション			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療V (ME)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 主な医療機器の原理を理解する。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 随時参考資料配布					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	医療機器について 輸液ポンプ・シリンジポンプの原理			講義・演習
2	2	人工呼吸器の原理・取扱い、酸素飽和度測定器			講義・演習
3	2	電気メス、低圧持続吸引器の取り扱い			講義・演習
4	2	生体情報モニタの原理・取扱い			講義・演習
5	2	除細動器・ペースメーカーの取扱い			講義・演習
6	2	I A B P, P C R S の取扱い			講義・演習
7	2	腎代替え療法			講義・演習
8	2	アフエレシス療法			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅴ (手術)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (4/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 手術が生体に与える影響について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	腹腔鏡手術について			講義
2	2	開腹手術			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅴ (麻酔)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 麻酔が生体に与える影響について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	麻酔について①麻酔の種類と合併症、術前・術後訪問			講義
2	2	麻酔について②回復室での全身管理			講義
3	2	麻酔について③手術および麻酔侵襲と生体反応			講義
4	2	麻酔について④術後合併症の予防			講義
5	2	総括			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療VI(女性生殖器)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 女性生殖器系の健康障害と治療について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑨ 女性生殖器 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	女性生殖器の構造と内分泌機能、婦人科診察、処置、検査			講義
2	2	婦人科良性疾患			講義
3	2	婦人科悪性疾患			講義
4	2	乳がん			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療VI(放射線治療)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 放射線治療の基礎的知識を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 臨床放射線医学 医学書院					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	画像診断と看護			講義
2	2	X線を使用しない画像診断と I V R			講義
3	2	放射線治療と看護			講義
4	1	放射線による身体への影響			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅶ(補完・代替療法)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	2 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>補完・代替療法の概要を学ぶ。西洋医学とは異なる切り口で、患者を全人的に捉え、自然治癒力を引き出す療法について理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>基本としくみがわかる東洋医学の教科書 ナツメ社</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	食養生とミトコンドリア			講義
2	2	東洋医学の基礎・脂質			講義
3	2	自律神経と感情のしくみ			講義
4	1	自然医学の基礎			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	疾病と治療Ⅶ(免疫・アレルギー)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	2 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 免疫・アレルギー系の健康障害と治療の概要を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護④ 血液/アレルギー・膠原病/感染症 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	免疫・アレルギーの基礎			講義
2	2	アレルギー疾患			講義
3	2	膠原病の基礎			講義
4	2	膠原病の臨床			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護にいかす薬理学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 医療における薬物療法について知るとともに代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	医薬品、医薬品の作用原理とその影響			講義
2	2	医薬品の適正な使用に向けて			講義
3	2	感染症に使用する薬			講義
4	2	免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬			講義
5	2	がんを使用する薬			講義
6	2	末梢神経に使用する薬			講義
7	2	脳・中枢神経系疾患に使用する薬			講義
8	2	循環器疾患に使用する薬			講義
9	2	血液・造血器疾患に使用する薬			講義
10	2	代謝／内分泌疾患に使用する薬			講義
11	2	呼吸器疾患に使用する薬			講義
12	2	消化器疾患に使用する薬			講義
13	2	泌尿器・生殖器疾患に使用する薬			講義
14	2	感覚器疾患に使用する薬			講義
15	2	周術期・救命救急時に使用する薬			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	公衆衛生学	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	3 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 人間の健康と社会環境の関連を知り、組織的な公衆衛生活動について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	健康と予防の概念 環境保健			講義
2	2	人口と保健統計 医療法			講義
3	2	食中毒 感染症			講義
4	2	母子保健 学校保健			講義
5	2	非感染性疾患 地域保健 成人保健			講義
6	2	高齢者保健 介護保険			講義
7	2	精神保健 産業保健			講義
8	1	まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	関係法規	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年後期
担当教員： 非常勤講師					
≪科目目標≫ 保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解し、看護との関係を理解する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	イントロダクション 総論			講義
2	2	民事法の世界			講義
3	2	刑事法の世界			講義
4	2	行政法の世界			講義
5	2	労働法の世界			講義
6	2	看護をめぐる様々な方法			講義
7	2	問題演習			講義
8	1	医療倫理			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	社会福祉	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>全ての人々が健康でその人らしい生活が送れるよう支援するために、社会福祉の理念、社会的な施策の動向、少子高齢化の現代社会とその福祉の実際、及び社会保障制度を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	社会福祉、社会保障、福祉の実際			講義
2	2	社会資源の活用			講義
3	2	生活保護			講義
4	2	地域福祉			講義
5	2	年金制度、労災制度			講義
6	2	医療保険制度、雇用保険制度			講義
7	2	雇用保険制度、介護保険制度			講義
8	2	まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	社会福祉	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (14/30)	開講時期	2 年前期
担当教員：非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>全ての人々が健康でその人らしい生活が送れるよう支援するために、社会福祉の理念、社会的な施策の動向、少子高齢化の現代社会とその福祉の実際、及び社会保障制度を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	オリエンテーション・ 総論			講義
2	2	暮らしと社会福祉・社会保障			講義
3	2	ライフサイクルと社会福祉 (児童)			講義
4	2	ライフサイクルと社会福祉 (障害・難病)			講義
5	2	ライフサイクルと社会福祉 (高齢者)			講義
6	2	生活と福祉・事例を通して			講義
7	2	まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	健康管理論	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：社会における人々の健康に関する意識状況を知る。また、自己の健康に関心を持ち、適切な健康管理を理解する。</p> <p>学習目標：1. WHO の健康の定義の概要を理解する。 2. プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康日本 21 等の健康政策の概要を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 健康とは			講義・演習
2	2	2. 健康の定義			講義・演習
		3. 健康に影響する要因 4. 健康政策			
3	2	5. 発達段階からみた健康 ライフサイクルと健康			講義・演習
4	1	6. 健康に影響を及ぼす要因への対応			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	健康管理論	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (8/15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：社会における人々の健康に関する意識状況を知る。また、自己の健康に関心を持ち、適切な健康管理を理解する。</p> <p>学習目標：健康問題へのアプローチの方法としての健康行動理論を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、課題レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 健康行動理論① 健康信念モデル、社会的認知理論			講義
2	2	2. 健康行動理論② 変化のステージモデル、計画的行動理論、ストレスとコーピング			講義
3	2	3. 健康行動理論③ ソーシャルサポート、コントロール所在			講義
4	2	4. 健康行動理論④ 7つの理論のまとめと活用			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	健康と食生活 (栄養学)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (14/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 生活者の健康を維持するために必要な栄養素の構造と性質を理解し、酵素の働き・代謝について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進④ 臨床栄養学 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	臨床栄養学の基礎知識			講義
2	2	食品成分と食事摂取基準			講義
3	2	日常生活と栄養①			講義
4	2	日常生活と栄養②			講義
5	2	療養生活と栄養			講義
6	2	疾患別の栄養食事療法①			講義
7	2	疾患別の栄養食事療法② 栄養食事指導の実際			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	健康と食生活 (生化学)	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位 (時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年前期
担当教員：非常勤講師					
<<科目目標>> 生活者の健康を維持するために必要な栄養素の構造と性質を理解し、酵素の働き・代謝について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>> 自己学習					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	エネルギーと ATP、アミノ酸の構造、ペプチド結合			講義
2	2	タンパク質の立体構造と病気、酵素の分類			講義
3	2	酵素の影響因子			講義
4	2	アルコール代謝、アイソザイムと検査、糖の構造			講義
5	2	二糖類、多糖類 糖の代謝 (消化)			講義
6	2	解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、酸化的リン酸化			講義
7	2	糖新生、ペントースリン酸回路、血糖値の調整、脂質			講義
8	2	中性脂肪、脂肪の分解と合成、リポ蛋白質、コレステロール代謝			講義

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	多職種理解と連携	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位（時間）	1（15）	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員、非常勤講師					
<b>《科目目標》</b> 医療の中で活躍する多職種の職務・職域・具体的な仕事内容を知り、自らの専門職と多職種との連携について考える					
<b>《成績評価の方法》</b> レポート ・ 授業参加度					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 メディカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b>					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 非常勤講師に対して質問できるように考えてくる。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護師と関係職種、医療の場における多職種連携 医療施設で働く多職種（チーム医療）			講義
2	2	多職種連携のための心構え			講義 ワーク
3	2	管理栄養士—職務と職域、仕事の実際、栄養管理室とチーム医療 < 管理栄養士 > 退院調整看護師の役割—仕事の実際、多職種との連携 < 退院調整看護師 >			講義
4	2	理学療法士—職務と職域、仕事の実際、理学療法士とチーム医療 < 理学療法士 > 薬剤師—職務と職域、仕事の実際、薬剤師とチーム医療 < 薬剤師 >			講義
5	2	臨床検査技師—職務と職域、仕事の実際、臨床検査技師とチーム医療 < 臨床検査技師 > 診療放射線技師—職務と職域、仕事の実際、診療放射線技師とチーム医療 < 診療放射線技師 >			講義
6	2	患者を取り巻く多職種のマップ作成			演習
7	2	多職種連携の実際（マップ）発表			演習
8	1	まとめ（多職種との連携—看護師の役割）			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>看護を学ぶにあたっての基礎となる看護の理念、看護の対象としての人間、看護の主要概念、歴史的な変遷を理解し、看護の全体像を把握する。あわせて初期の段階での自分なりの考えを整理する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版 看護覚え書ー看護であること 看護でないことーフローレンス・ナイチンゲール 現代社</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護について			講義・演習
2	2	看護の専門性について (時代の流れとともに変わってきていること変わらないこと)			講義・演習
3	2	看護の歴史について (日本とアメリカの看護について)			講義・演習
4	2				
5	2	代表的な看護理論家から看護を考える (フローレンス・ナイチンゲール, ヴァージニア・ヘンダーソン)			講義・演習
6	2				
7	2	代表的な看護理論家から看護について考える (ペプロウ, オレム, カリスタ・ロイ, トラベルビー, ウィーデンバックなど)			講義・演習
8	2				
9	2	健康と健康障害について			講義・演習
11	2	看護における倫理と価値			講義・演習
12	2				
13	2	看護師の役割拡大について			講義・演習
14	2	チーム医療について			講義・演習
15	2	これからの看護の課題と展望			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 人間関係を成立・発展させるために必要な基礎的コミュニケーション技術を身につける。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験・レポート					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 I メディカ出版 看護コミュニケーション基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b> コミュニケーションに関する文献を集め、コミュニケーションについて学びを深めていく。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	コミュニケーションの概念			講義・演習
2	2	看護学でコミュニケーションを学ぶ意義			講義・演習
3	2	コミュニケーションの基本原理・構造とプロセス・種類とその概要			講義・演習
4	2	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション			講義・演習
5	2				
6	2	看護の場面で効果的なコミュニケーション技術			講義・演習
7	2	1) 社会的コミュニケーション・専門的コミュニケーション			
8	2	2) コミュニケーションに必要な能力と態度・影響するもの			
9	2	3) 医療・看護におけるコミュニケーション			
10	2	4) 良好なコミュニケーションに必要な技法			
11	2	5) 積極的傾聴と共感			
12	2	実習で遭遇するコミュニケーション困難な状況への対応			講義・演習
13	2	・コミュニケーション障害・実習でみかける困難な状況			
14	2	アサーティブネスについて			講義・演習
15	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>複数の臨床で経験してきたフィジカルアセスメントの技術とその根拠について、その経験を活かした実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>フィジカルアセスメントの目的・意義を理解する。対象の身体状況をアセスメントするために必要なバイタルサインの測定技術・フィジカルイグザミネーションの技法を身につけ、対象者から得た身体情報から基礎的な正常異常の判断ができるよう学習を深める。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、技術テスト</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版          ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版          看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA          看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>使用教材・参考図書に掲載されているAR動画等を視聴し、イメージをつくる          人体の構造と機能の自己学習と学んだ技術の反復練習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	フィジカルアセスメントとは バイタルサインとは			講義
2	2	体温について 体温調節の技術			講義
3	2	バイタルサインの測定技術 呼吸・脈拍			講義
4	2	バイタルサインの測定技術 血圧			講義
5	2	バイタルサイン測定 (体温・呼吸・脈拍・血圧)			演習
6	2				
7	2	循環に関するフィジカルイグザミネーション 意識について			講義
8	2	呼吸に関するフィジカルイグザミネーション			講義
9	2	フィジカルアセスメントの技術 循環・呼吸			演習
10	2	排泄と体液に関するフィジカルイグザミネーション			講義
11	2	フィジカルアセスメントの技術 腹部・浮腫			演習
12	2	フィジカルアセスメントの活用と報告			講義
13	2	症状に合わせたフィジカルアセスメントの活用			講義・演習
14	2	バイタルサイン測定 アセスメントと報告			講義・演習

15	2	バイタルサイン測定の技術試験 まとめ	技術試験 講義
----	---	-----------------------	------------

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (安全)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<<科目目標>> 1. 看護における安全の意義および患者の安全と医療従事者の安全を守る技術を身につける。 2. 感染予防の意義を理解し、看護の対象者と看護者自身の安全を守るための原理・原則に基づいた感染予防の看護技術を身につける。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシング・グラフィカ：基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 教科書に掲載してある AR 動画を視聴し、イメージをつける。					
<<履修に当たっての留意点>> 各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術 1) 医療安全の意義と確保 2) 患者の安全：主な医療事故とその予防策 3) 医療従事者の安全			講義
2	2				
3	2	1. 感染予防を推進する技術 1) 感染予防の意義 2) 感染症に関する法律 3) 感染症を成立させる要素と成立過程 4) 感染予防のための援助方法 5) 感染予防のための組織と役割 6) 医療廃棄物の取り扱い			講義
4	2				
5	2	1. 感染症を予防するための技術① 1) 手指衛生 2) 個人防護具の選択・着脱手順 3) 滅菌と消毒			講義・演習
6	2	1. 感染症を予防するための技術② 1) 無菌操作 2) 滅菌物の取り扱い			講義・演習
7	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (環境)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>人間にとっての環境の意味を理解し、対象が安全・安楽に闘病意欲を高め自立に向けた環境を整える援助技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、技術試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版                  看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA                  学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	環境の意義 環境を整える技術			講義
2	2	ベッドメイキングの基礎知識			講義・演習
3	2	2人で行うベッドメイキング			
4	2	病床環境と病床の整備 病床環境の調整援助のアセスメントの視点 事例による病床環境の情報収集とアセスメント			講義
5	2	臥床患者のシーツ交換			演習
6	2	事例による病床環境の情報収集とアセスメントを活かした			講義・演習
7	2	病床環境調整			
8	2	ベッドメイキング技術試験 まとめ			技術試験 講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>人間にとっての活動及び休息・睡眠の意義とそのメカニズムについて理解し、基礎的な活動・休息・睡眠の援助技術を身につける。 人間にとっての清潔・衣生活の意義や清潔に関する生理学的メカニズムを理解し、基礎的な清潔の援助技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・技術試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>実習室を有効に活用し、看護技術の反復練習を行い技術習得する</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>特に演習については、教科書や視覚教材を使い事前学習して参加する</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	休息と睡眠の意義・生理学的メカニズム 休息・睡眠のニーズに関するアセスメント 休息・睡眠を促す援助の実際			講義
2	2	活動・運動の意義・生理学的メカニズム 活動・運動のニーズのアセスメント			講義
3	2	安楽な体位 ボディメカニクス 活動・運動を支援する援助 安楽な体位の調整 体位変換			講義・演習
4	2	車いす・ストレッチャーでの移動・移送・歩行			演習
5	2	清潔・衣生活の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 清潔行為とその影響 清潔のセルフケアに影響を与える要因			演習
6	2	清潔の援助方法 寝衣交換			講義・演習
7	2	清潔の援助方法 全身清拭			講義・演習
8	2	清潔の援助方法 全身清拭			講義・演習
9	2	清潔の援助方法 臥床患者の全身清拭			演習
10	2	清潔の援助方法 臥床患者の全身清拭			演習
11	2	清潔の援助方法 手浴・足浴			講義・演習
12	2	清潔の援助方法 手浴・足浴			講義・演習
13	2	清潔の援助方法 洗髪			講義・演習
14	2	清潔の援助方法 洗髪			講義・演習
15	2	技術試験 「臥床患者の全身清拭」			技術試験

科目名	基礎看護技術Ⅴ(食・排)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30/30)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 1. 人間にとっての食事の意義や食事・栄養のメカニズムについて理解し、基礎的な食事の援助技術を身につける。 2. 人間にとっての排泄の意義や排泄のメカニズムについて理解し、基礎的な排泄の援助技術を身につける。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA とにかく使える検査値の見かた 第2版 照林社					
<b>《授業外における学習方法》</b>					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	食事・栄養の意義：食事に関する生理学的メカニズム			講義
2	2	食事・栄養に関する基礎知識 栄養状態のアセスメント			講義
3	2	食事・栄養に関する援助			講義
4	2	口腔ケア			講義
5	2	食事介助・口腔ケア			演習
6	2	非経口摂取の援助（経管栄養法・中心静脈栄養）			講義
7	2	排尿・排便の意義 排尿・排便の生理学的メカニズム			講義
8	2	排尿・排便の援助：床上での排尿・排便の援助			講義・演習
9	2	おむつを用いた援助			講義・演習
10	2	おむつ交換・陰部洗浄			
11	2	排尿・排便障害の種類①：排便行動、自然排便を阻害する因子			講義
12	2	排便障害時の援助①：温罨法・腹部マッサージ			演習
13	2	排便障害時の援助②：グリセリン浣腸			講義・演習
14	2	排尿・排便障害の種類②：排尿行動、自然排尿を阻害する因子			講義
15	2	排尿障害時の援助：一時的導尿			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術VI	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float:right"><b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 診療の補助技術に必要な人体の構造と機能を理解した上で、対象者が安全・安楽に検査・治療・処置を受けられるよう基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちを考え、配慮の必要性を学ぶ。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
<b>《授業外における学習方法》</b> 教科書に掲載してある AR 動画・DVD などを視聴し、イメージをつける 人体の構造と機能の復習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 身体侵襲を伴う技術内容となるため、演習が安全で効果的となるよう十分な事前学習を行い主体的な姿勢で臨みましょう					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	治療・処置時の患者の理解と看護者の役割			講義
2	2	呼吸を楽にする援助 1) 呼吸法 2) 痰を喀出させる方法 (体位ドレナージ)			講義
3	2	3) 吸引 一時的吸引 (口腔・鼻腔) の基礎知識 持続吸引の基礎知識			講義
4	2	4) 一時的吸引 (口腔内)			演習
5	2				
6	2	5) 吸入 (ネブライザー) 療法			講義・演習
7	2	6) 酸素療法 酸素の取り扱い (中央配管・酸素ポンペ)			講義
8	2				演習
9	2	皮膚・創傷を管理するための基礎知識 1) 創傷の分類と治癒過程 創傷の管理			講義

10	2	2) 包帯法・三角巾	講義・演習
11	2	検査の意義 検査を受ける看護師の役割 検査の種類と実施時の注意点 検査の援助 身体計測 尿・便・喀痰検査	講義
12	2	腰椎穿刺・骨髄穿刺・胸水穿刺・腹水穿刺 血液検査 静脈血採血	講義
13	2	静脈血採血	講義
14	2	シミュレーターを使用した静脈血採血（真空採血管による採血）	演習
15	2		

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	基礎看護技術Ⅶ（注射）	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（20/30）	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に薬物療法・基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちに配慮した援助技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版                  看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA                  看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書に掲載してある AR 動画・DVDなどを視聴し、イメージをつける。                  講義に関連する「人体の構造と機能」「基礎看護技術」の講義内容を振り返り理解する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>演習では、針などの医療物品を取り扱います。演習が安全で効果的な学習となるよう主体的な姿勢で臨み、また、演習時は身だしなみを整え忘れ物がないようにする。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	注射のための援助技術 ・注射法で使用する物品 注射の準備			講義
2	4	注射の実際① 皮内注射・皮下注射・筋肉内注射			講義・演習
3		目的・適応・必要物品・注射部位・方法・アンプルカット			
4	4	シミュレータを使用した皮下注射			演習
5					
6	4	注射の実際② 静脈内注射 点滴静脈内注射			演習
7		目的・適応・必要物品・注射部位・方法			
8	4	シミュレータを使用した点滴静脈内注射			講義
9					
10	2	持続点滴を挿入している患者の観察・寝衣交換			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅶ(与・輸)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に薬物療法・輸血・中心静脈挿入介助を行うための基礎的な知識を理解する。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
<b>《授業外における学習方法》</b> 教科書に掲載してある AR 動画・DVDなどを視聴し、イメージをつける。 講義に関連する「人体の構造と機能」「基礎看護技術」の講義内容を振り返り理解する。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 与薬とは 2. 薬物療法と看護 3. 与薬のための基礎知識			講義
2	2	1. 与薬のための援助技術 1) 安全で確実な与薬のための知識・技術・態度 2) 与薬法			講義
3	2	(1) 経口的与薬法 (2) 口腔内与薬法 (3) 直腸内与薬法 (4) 点眼・点入法 (5) 点鼻法 (6) 点耳法 (7) 吸入法			
4	2	(8) 塗布法 (9) 貼付法 (10) 注射法〔(皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射(末梢静脈内注射・中心静脈内注射))〕			
5	2	1. 輸血のための援助技術			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<p>《科目目標》</p> <p>効果的な看護活動をするため、看護倫理・看護の役割を基に問題解決技法である看護過程を展開する方法を学ぶ。また、看護過程を展開するための基礎的な知識として、アセスメント、問題の明確化(看護診断)、計画立案、実施、評価のそれぞれの方法と一連の流れを理解する。事例患者の看護過程を展開し、アセスメントから計画立案・記録の方法について学ぶ。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>課題の評価表(ルーブリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版          看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA          看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護過程とは			講義・演習
2	2	看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化			講義・演習
3	2	3) 看護計画 4) 実施 5) 評価			
4	2	事例患者の看護過程展開			講義・演習
5	2	1) アセスメント			
6	2	2) 看護問題の明確化			
7	2	3) 看護計画			
8	2	4) 実施			
9	2	5) 評価			
10	2				
11	2				
12	2				
13	2				
14	2	看護過程展開に必要な能力			講義・演習

		問題解決能力・クリティカルシンキング・リフレクション	
15	2	倫理的配慮と価値判断 看護における記録・報告	講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し、講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>看護過程Ⅰでは、看護過程の一連の流れと方法について学習した。看護過程Ⅱでは、看護過程Ⅰの学習をもとに、疾患や治療が人間の生活に及ぼす影響を考えながら事例患者の看護過程を展開する。ゴードンの機能的健康パターンを用いて、アセスメントから看護問題の明確化を行い、看護計画立案・実施・評価の一連の思考過程を学習し看護過程の理解を深める。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>課題の評価表(ループリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版          ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 メディカ出版          看護がみえる Vol. 4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>既習(看護過程Ⅰ・疾病と治療・薬理学など)の授業資料を活用し課題に取り組むこと</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前学習(課題)に取り組み、授業に参加すること</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	1	事例患者の看護過程展開 疾患・治療が患者の生活に及ぼす影響			講義・演習
2	2	1) アセスメント			講義・演習
3	2	2) 看護問題の明確化			講義・演習
4	2	2) 看護問題の明確化			講義・演習
5	2	3) 看護計画			講義・演習
6	2	4) 実施			講義・演習
7	2	5) 評価			講義・演習
8	2	まとめ			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (7/15)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<p>《科目目標》</p> <p>事例を用いたシミュレーション演習を実践し、患者の観察から必要な情報に「気づく」ことができ、その意味を理解し看護に活かすことができる。この過程を通して臨床判断能力の基礎を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>評価表(ルーブリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ：基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版          ナーシング・グラフィカ：基礎看護学③ 基礎看護技術 II メディカ出版          看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA          看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA          看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA          看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>既習内容を理解し、また、必要な学習内容を主体的に考え学習する。          提示された事前課題を学習する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	臨床判断の実際②			講義・演習
2	2	2) 事例を用いたシミュレーション演習(フィジカルアセスメント)			
3	2				
4	1				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域包括支援 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習 フィールドワーク
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 在宅看護業務に携わった教員が教授している					
≪科目目標≫ 地域の特性を知り、そこで生活する人とその人を取り巻く地域包括ケアシステムを理解する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 公衆衛生がみえる メディックメディア 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社					
≪授業外における学習方法≫ 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	瀬戸市の地域特性・統計、			講義
2	2	地域包括ケアシステム：地域包括支援センター			講義
3	2	地域に生活する人を支える制度・社会資源			講義
4	2	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携			講義
5	1	訪問マナー、地区踏査について			講義・演習
6	2	地区踏査①：私たちの身近な地域の特徴			フィールドワーク
7	2	地区踏査②：学びの共有			演習 (GW)
8	2	地区踏査③：まとめ			演習 (発表)

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域包括支援Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	2 年中期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
在宅看護業務に携わった教員が教授している					
《科目目標》					
地域で療養する人と家族の生活を理解し、それを支える看護を学ぶ					
《成績評価の方法》					
筆記試験					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》					
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版					
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版					
公衆衛生がみえる メディックメディア					
基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社					
《授業外における学習方法》					
予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する。					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 在宅療養者と家族の支援 1) 在宅看護の対象者 2) 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件			講義
2	2	3) 在宅療養の場における家族のとらえ方			講義
3	2	4) 在宅療養者の家族への看護			講義
4	2	2. 地域療養を支える制度 1) 医療保険制度、難病法、子どもの在宅療養を支える制度と 社会資源			講義
5	2	3. 在宅療養を支える訪問看護 1) 訪問看護の特徴、在宅ケアを支える訪問看護ステーション			
6	2	2) 訪問看護サービスの展開、訪問看護の記録			講義
7	1	4. 訪問看護技術 1) 家庭訪問、初回訪問			講義
8	2	2) 訪問看護の実際			外部講師

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	地域・在宅看護概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 在宅看護業務に携わった教員が教授している					
<<科目目標>> 社会背景を理解し、在宅看護の特徴や基盤を学び、在宅療養者の特性と家族のニーズに即した看護を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材（教科書）及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 公衆衛生がみえる メディックメディア 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社					
<<授業外における学習方法>> 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 在宅看護の概念 1) 在宅看護のイメージ			講義
2	2	2) 地域・在宅看護の背景、地域・在宅看護の基盤			講義
3	2	3) 地域療養を支える在宅看護の役割・機能			講義
4	2	4) 地域・在宅看護を展開するための基本理念、地域・在宅看護における倫理			講義
5	2	2. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 1) 地域包括ケアシステム			講義
6	2	2) 療養の場の移行に伴う看護（退院支援・退院調整）			講義
7	1	3) 在宅看護におけるケアマネジメント			講義
8	2	4) 認知症サポーター養成講座			外部講師

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域・在宅看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 在宅看護業務に携わった教員が教授している					
<b>《科目目標》</b> 地域で療養する人の生活から、看護課題を見出して、その人に必要な生活支援について知識・技術を習得する					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ					
<b>《授業外における学習方法》</b> 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護過程			講義
2	2	安全と健康危機			
3	2	感染予防 災害対策			
4	2	看護技術のアセスメントと援助 ・コミュニケーション			講義 (GW)
5	2	・環境整備 ・福祉用具 ・生活リハビリ			
6	2	環境のアセスメントの実際			演習 (GW)
7	2	福祉用具 まとめ			演習 (GW・発表)
8	2	呼吸・フィジカルアセスメント			講義
9	2	食事のアセスメントと援助			講義
10	2	フレイル予防のアセスメントと援助			講義
11	2	清潔・足病変のアセスメントと援助			講義
12	2	清潔（頭皮・頭髪、足の清潔）の技術			演習
13	2	ベッド上の移動の技術			
14	2	排泄のアセスメントと援助			講義
15	2	ストーマ管理			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域・在宅看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業</span> <input checked="" type="checkbox"/> 在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
≪科目目標≫ 地域で療養する人と家族が安心して日常生活を送るために必要な医療処置と支援について知識、技術を習得する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ					
≪授業外における学習方法≫ 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読するとともに、関連動画を視聴する					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	医療ケアの原理原則 医療処置を必要とする療養者の理解 (小児・難病)			講義
2	2	排尿ケア (膀胱留置カテーテル)			講義
3	2	在宅経管栄養法			講義
4	2	在宅中心静脈栄養法			講義
5	2	膀胱留置カテーテル演習			演習
6	2				
7	2	在宅酸素療法			講義
8	2	在宅人工呼吸療法 (NPPV・TPPV)			講義
9	2	カニューレ管理、排痰ケア			講義
10	2	在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法患者の看護			外部講師
11	2	薬物療法・インスリン自己注射管理・疼痛管理			講義
12	2	がん外来化学療法・在宅 CAPD 管理			講義
13	2	褥瘡管理			講義・演習
14	2	在宅ターミナルケア			講義
15	2	在宅ターミナルケアの実際			外部講師

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域・在宅看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業</span> <input checked="" type="checkbox"/> 在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
≪科目目標≫ 地域での療養生活を継続するための、訪問看護の役割と在宅看護の展開方法を理解する					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・課題レポート					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 在宅看護過程 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 予習・復習はテキスト・関連書籍の該当ページを熟読し、理解を深める					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	事例① 自己管理が必要な糖尿病のある独居高齢者：移行期			講義
2	2				
3	2	事例② 中途障害による頸髄損傷障害者：安定期			講義
4	2	事例③ 地域で生活する重症心身障害児と家族：移行期・安定期			講義
5	2	事例④ 在宅で終末期を迎える療養者と家族：終末期			講義
6	2	事例⑤ 電子カルテからの情報整理とアセスメント			演習 (GW)
7	2				
8	1				

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 成人看護の実務経験を活かし、成人期を理解するために必要な基礎的知識、成人教育を教授している					
≪科目目標≫ 役割や責任を果たしながら自立して生活している成人期にある対象の特徴を理解し、その人の力を高めていく関わり方の基礎を学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・実技試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ 文献学習					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	成人各期の特徴			講義
2	2	成人各期の健康問題 生活習慣に関連する健康障害			講義
3	2	健康レベル・経過別看護 成人への看護に有用な概念（病みの軌跡・セルフケア）			講義
4	2	成人への看護に有用な概念（ストレス）			講義
5	2	成人への看護に有用な概念（危機）			講義
6	2	成人への看護に有用な概念（自己効力） 健康教育演習のオリエンテーション			講義
7	2	成人の学習の特徴と看護			講義
8	2	看護における教育・指導技術			講義
9	2	情報収集（面接）			演習
10	2	情報収集（面接）			演習
11	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
12	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
13	2	指導の実施及び評価			演習
14	2	指導の実施及び評価			演習
15	2	指導後の対象の状況の確認と評価（面接）			演習

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 成人看護の実務経験を活かし、成人期を理解するために必要な基礎的知識、成人教育を教授している					
≪科目目標≫ 役割や責任を果たしながら自立して生活している成人期にある対象の特徴を理解し、その人の力を高めていく関わり方の基礎を学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・実技試験					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ 文献学習					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	成人各期の特徴			講義
2	2	成人各期の健康問題 生活習慣に関連する健康障害			講義
3	2	健康レベル・経過別看護 成人への看護に有用な概念（病みの軌跡・セルフケア）			講義
4	2	成人への看護に有用な概念（ストレス）			講義
5	2	成人への看護に有用な概念（危機）			講義
6	2	成人への看護に有用な概念（自己効力） 健康教育演習のオリエンテーション			講義
7	2	成人の学習の特徴と看護			講義
8	2	看護における教育・指導技術			講義
9	2	情報収集（面接）			演習
10	2	情報収集（面接）			演習
11	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
12	2	パンフレット・指導計画書の作成			講義
13	2	指導の実施及び評価			演習
14	2	指導の実施及び評価			演習
15	2	指導後の対象の状況の確認と評価（面接）			演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、リハビリ期の疾患や患者の特徴、アセスメントの視点、看護援助方法について教授している					
<b>《科目目標》</b> リハビリテーションを必要とする人の、身体的・精神的・社会的特徴を理解し、セルフケアの再獲得ができるよう、自己の力を引き出す看護を学ぶ					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験・課題レポート					
<b>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 6～14回は事例を用いた看護過程を行うため、事前学習を行って講義に臨むこと グループワークを行うため、積極的にワークに参加すること					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	リハビリテーション看護 時期・目的からみたリハビリテーション看護 リハビリテーション看護の対象と心理			講義
2	2	リハビリテーション看護の方法 障害者を支える制度 多職種連携のあり方			講義
3	2	運動器系の障害とリハビリテーション看護			講義
4	2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護			講義
5	2	呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション看護			講義
6	2	看護過程の展開：オリエンテーション、事例提示			講義
7	2	看護過程の展開：疾患理解			講義・演習
8	2	看護過程の展開：データベースアセスメント			講義・演習
9	2	看護過程の展開：全体像の理解			演習
10	2	看護過程の展開：看護計画①			講義・演習
11	2	看護過程の展開：看護計画②			講義・演習
12	2	看護過程の展開：援助計画立案			演習
13	2	看護過程の展開：看護の実際 (ロールプレイ)			演習

14	2	実施記録と評価	
15	2	看護過程の展開：まとめ	講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業</span> <input checked="" type="checkbox"/> がん看護・終末期看護を実践してきた経験をもつ教員が講義をおこなう					
≪科目目標≫ 学習目的：看護師が看護実践するために必要ながん・終末期看護の知識について理解する 学習目標： <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者が安全安楽にその人らしい生活が送れるよう援助する方法を学ぶ</li> <li>・終末期にある人の心身の変化を理解し、心身の苦痛を緩和する看護を学び死生観を養う</li> </ul>					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA					
≪授業外における学習方法≫ 指定した自己学習は必ず取り組み、効果的に理解を深められるようにする					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	緩和ケア概論：緩和ケアとは何か、緩和ケアの現状、緩和ケアにおける看護師の役割を理解する			講義
2	2	がんの病態と診断、治療の特徴			講義
3	2	がん治療に対する看護：化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植			講義
4	2	身体症状とその治療・看護① 痛みの症状マネジメントの基本を理解する			講義
5	2	身体症状とその治療・看護② 痛み以外の症状マネジメントの基本を理解する			講義
6	2	精神症状とその治療・看護			講義・演習
7	2	身体・精神症状に対する看護ケア			演習
8	2				
9	2	緩和ケアのコミュニケーション			講義・演習
10	2	意思決定を支える看護			講義・演習
11	2	緩和ケアと生命倫理			講義・演習
12	2	非がん患者の緩和ケア			講義
13	2	地域・在宅緩和ケア			講義・演習
14	2	家族ケア			講義
15	2	臨死期のケア			講義・演習

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人看護の方法Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業</span> <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助方法について教授する</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護を学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座：別巻 救急看護学 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>文献学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業の中でグループワークを多く行います。積極的に意見交換をし、自分自身の意見を述べて学びを深めていってください。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	救急看護とクリティカルケアの特徴 救急医療体制と救急搬送システム 救急看護・クリティカルケアの場			講義
2	2	救急外来におけるトリアージ			講義・演習
3	2	ショックとその対応			講義
4	2	心停止とその対応			講義
5	2	対象と家族の心理状態とその関わり			講義
6	2	脳死と臓器移植			講義・演習
7	2	胸痛の看護①			講義・演習
8	2	胸痛の看護②			講義・演習
9	2	意識障害への対応①			講義・演習
10	2	意識障害への対応②			講義・演習
11	2	クモ膜下出血の看護			講義
12	2	急性呼吸不全の看護			講義
13	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性			講義
14	2	気管内吸引			演習
15	2	気管内吸引			演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 急性期看護の実務経験を活かして、救急看護・クリティカルケア看護の基礎知識と看護援助方法について教授する					
<<科目目標>> 疾病の急激な発症や急変によって起こった生命の危機的状態にある患者と家族に対する看護を学ぶ					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> 系統看護学講座：別巻 救急看護学 医学書院					
<<授業外における学習方法>> 文献学習					
<<履修に当たっての留意点>> 授業の中でグループワークを多く行います。積極的に意見交換をし、自分自身の意見を述べて学びを深めていってください。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	救急看護とクリティカルケアの特徴 救急医療体制と救急搬送システム 救急看護・クリティカルケアの場			講義
2	2	救急外来におけるトリアージ			講義・演習
3	2	ショックとその対応			講義
4	2	心停止とその対応			講義
5	2	対象と家族の心理状態とその関わり			講義
6	2	脳死と臓器移植			講義・演習
7	2	胸痛の看護①			講義・演習
8	2	胸痛の看護②			講義・演習
9	2	意識障害への対応①			講義・演習
10	2	意識障害への対応②			講義・演習
11	2	クモ膜下出血の看護			講義
12	2	急性呼吸不全の看護			講義
13	2	救急看護・クリティカルケア看護の専門性			講義
14	2	気管内吸引			演習
15	2	気管内吸引			演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人看護の方法V	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
外科病棟での実務経験を活かして、周手術期の生体反応や看護の方法について教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>周手術期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とそれらに応じた看護を学び、周手術期にある人を支援するために必要な基礎的能力を養う。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート、ピア評価</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1, 2, 3 医歯薬出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>演習前の技術練習は、必ず誰が行ってもできるようにして参加してください。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>疾病と治療V(麻酔・生体反応、手術)で学習した内容を復習する。 この講義で学習することは、直接成人・老年看護学実習IVにつながるものとなります。分からないことをそのままにしないようにして下さい。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	周手術期看護とは・周手術期の心理過程の特徴・術前検査			講義
2	2	手術室の環境・手術室における看護・麻酔・Moore 分類			講義
3	2	生体侵襲理論・循環器系・呼吸器系への影響と看護			講義・演習
4	2	消化器系・術後感染への影響と看護・ドレーン管理			
5	2	弾性ストッキング着脱(演習：教室で行います)			
6	2	麻酔や手術に影響を及ぼす事項・術後ベッド			講義
7	2	術後合併症の解釈と看護を考える			GW
8	2	事例における疾患の理解(胃がん・幽門側胃切除術)			講義
9	2	事例における関連図の作成・アセスメントと1日目の看護を考える			GW
10	2				
11	2				
12	2				
13	2	事例における1日目の看護を実践する(バイタルサイン測定・清拭			演習
14	2	/陰洗・離床)			
15	2	術後日数に合わせた看護・クリニカルパス・退院後の生活を考える			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：老年看護の対象および高齢者を取り巻く環境を理解し、看護の役割を学ぶ</p> <p>学習目標：1. 老年看護の対象を理解する 2. 高齢者を取り巻く社会の動きと現状を理解する 3. 加齢に伴う体の変化や疾病をめぐる変化の特徴を理解する 4. 高齢者疑似体験を通し、老化に伴う心理を推測する 5. 高齢者の尊厳と権利擁護の考え方を理解し、高齢者のもてる力を引き出す 老年看護の基本を理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 高齢者の理解 1) 高齢者とは 2) 高齢者の特徴と理解			講義
2	2	1. 加齢に伴う変化			講義・演習
3	2	1) 身体機能の生理的变化			
4	2	2) 心理・精神機能の変化			
5	2	3) 社会的機能の変化			
6	2	2. 高齢者疑似体験			講義
7	2	3. 高齢者に起こりやすい疾患の特徴			
8	2	1. 高齢者をとりまく社会 1) 高齢者の生活と家族			
9	2	2) 高齢者が生活する場			
10	2	3) 高齢者を支える制度 (1) 高齢者の医療の確保に関する法律に基づく制度			講義・演習
11	2	(2) 介護保険制度			
12	2	(3) 成年後見制度			
13	2	1. 高齢者看護における倫理 1) 高齢者虐待 2) 身体拘束			講義

14	2	2. 高齢者看護に関わる諸理論	
15	2	1. 高齢者にとっての健康 2. 高齢者とQOL	講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>療養病棟を有する病院で看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：高齢者に起こりやすい問題を知り、予防という視点から看護の役割を考える</p> <p>学習目標：1. 地域高齢者を支えている医療・福祉職とその役割を理解する 2. 介護が必要な高齢者を支える施設および通所施設を理解する 3. 高齢者に起こりやすい問題を知り、健康増進を支える取り組みを理解する 4. 健康を保ちながら生活する高齢者を知り、地域全体で健康増進を支える取り組みを理解する</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者看護の実践 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	多様な生活の場における看護			講義
2	2	高齢者のヘルスプロモーション① 1) 高齢者の健康増進 2) 生活習慣病予防 3) 転倒予防 4) 認知症予防 5) 社会参加			講義・演習
3	2				
4	2				
5	2				
5	2	高齢者のヘルスプロモーション② 1) 地域で役割を持ち、活躍する高齢者を知る 2) 高齢者の健康を地域全体で支える取り組みを知る ＊瀬戸市高齢者福祉課の専門職の方の講話 ＊瀬戸地域福祉を考える会「まごころ」の方の講話			講義・演習
6	2				
7	2	高齢者看護におけるチームアプローチ			講義・演習
8	1	高齢者のリスクマネジメント			

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：慢性疾患や健康障害を持つ高齢者が、疾患や障害をもちながらもその人らしく生活を営むことができるように持てる力に着眼し、安心していきいきと暮らせるよう、安全面にも配慮した看護を提供するための知識・技術を修得する。</p> <p>学習目標：1. 高齢者の6つの生活行動に焦点をあて、対象を捉える方法を理解する。                  2. 栄養状態を改善、維持する方法の1つである経鼻経管栄養を、安全に行うための、知識・技術を修得する。                  3. 排泄障害を来しやすい高齢者の排泄ケアを適切に行うための、知識・技術を修得する。                  4. 事例から高齢者の生活を整える看護を考えることができる。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・課題レポート・ポストテスト</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院                  ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 メディカ出版                  看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	老年看護の展開における考え方			講義
2	2	生活行動情報の着眼点(活動・休息)			講義
3	2	生活行動情報の着眼点(身じたく)			講義
4	2	生活行動情報の着眼点(コミュニケーション)			講義
5	2	生活行動情報の着眼点(食事)			講義
6	2	栄養管理：経鼻経管栄養カテーテルの挿入と管理			講義
7	2	経鼻経管栄養			演習
8	2	経鼻経管栄養			演習
9	2	摂食嚥下障害看護 <span style="float:right">*外部講師</span>			講義・演習
10	2	生活行動情報の着眼点(排泄)			講義
11	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(排便)1)			講義
12	2	排泄を支える看護(排尿障害、排便障害(排便)2)			演習

13	2	生活行動に焦点をあてた看護（事例検討）	講義
14	2	生活行動に焦点をあてた看護（事例検討）	講義
15	2	生活行動に焦点をあてた看護（発表）	演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	老年看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：治療を必要とする高齢者の看護について理解を深め、その人らしい生活を支える看護を実践するための知識や視点、ケアの方法を理解する。 学習目標： 1. 各病期の治療を受ける高齢者の看護が理解できる。 2. 認知症をもつ高齢者の看護が理解できる。 3. 病態と生活機能に着目した、看護過程の展開ができる。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験・課題レポート・ポストテスト					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害 メディカ出版 生活機能からみた老年看護過程 第4版 医学書院					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習を行う。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 課題レポートは、教科書以外の文献も活用する事。提出期日・時間厳守。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	治療を受ける高齢者の看護 1 (薬物療法)			講義
2	2	治療を受ける高齢者の看護 2 (急性期：手術療法)			講義
3	2	治療を受ける高齢者の看護 3 (慢性期：パーキンソン病)			講義
4	2	認知症・うつ病・せん妄の看護			講義
5	2	認知症看護 1 (病態・症状の理解・治療)			講義
6	2	認知症看護 2 (ユマニチュード・リラクゼーション)			講義
7	2	認知症看護 3 (ADL の低下が起こらないようなケア・環境の工夫を考える)			講義
8	2	認知症看護 4：治療・介護を必要とする高齢者の家族看護			講義
9	2	高齢者の終末期：終末期看護、意思決定支援			講義
10	2	老年看護過程：大腿骨頸部骨折の患者 事例展開			講義
11	2	老年看護過程：情報の分析①			講義
12	2	老年看護過程：情報の分析②			講義

13	2	老年看護過程：生活機能関連図	講義
14	2	老年看護過程：看護の焦点	講義
15	2	老年看護過程：看護の焦点（発表）	講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
小児病棟で実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 小児各期の成長発達の特徴を理解し、小児の健全な成長発達を促すための援助を学ぶ。また、子どもの最善の利益とは何かを考える。					
<b>《成績評価の方法》</b> 課題・筆記試験					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 公衆衛生がみえる メディックメディア					
<b>《授業外における学習方法》</b> 課題学習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 積極的にGWに参加できるよう、準備して授業に参加する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	小児看護の対象と区分・小児の成長発達の原則と影響因子 身体発育および発達の評価			講義
2	2				
3	2				
4	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：新生児			講義
5	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：乳児			GW
6	2				講義
7	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：幼児			GW
8	2				講義
9	2	小児各期の成長発達の特徴と健康生活への援助：学童期・思春期			GW
10	2	子どもの栄養			講義
11	2	調乳			演習
12	2	小児看護の変遷・子どもと家族を取り巻く法律と施策			講義
13	2	子どもの権利・子どもの最善の利益			講義
14	2	事例を用いて成長発達を促すかわりを考える			GW
15	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 小児期に起こりやすい代表的な疾患の病態・治療・検査について理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	新生児疾患、遺伝性疾患、染色体異常			講義
2	2	代謝・内分泌疾患			講義
3	2	免疫・アレルギー・膠原病疾患			講義
4	2	呼吸器・循環器疾患			講義
5	2	腎・泌尿器疾患、消化器疾患			講義
6	2	血液・腫瘍疾患			講義
7	2	神経・筋・精神疾患			講義
8	1	感染症・外科疾患・事故、虐待			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 小児科病棟勤務経験があり、その経験から得た知識や患児、家族との関わりなどを講義に いかしている。					
≪科目目標≫ 小児の健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、小児看護を行うための基礎的 知識を理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材 (教科書) 及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫ 小児看護概論で学んだ、子どもの成長発達を想起しながら子供の看護を考える					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	慢性期にある子どもと家族への看護			講義
2	2	急性期にある子どもと家族への看護 (発熱)			講義
3	2	急性期にある子どもと家族への看護 (下痢・嘔吐・脱水)			講義
4	2	急性期にある子どもと家族への看護 (けいれん)			講義
5	2	急性期にある子どもと家族への看護 (呼吸困難)			講義
6	2	周手術期にある子どもと家族への看護			講義
7	2	障害をもつ子どもと家族への看護 被虐待児と家族への看護			講義
8	2	在宅における子どもと家族への看護 災害を受けた子どもと家族への看護			講義
9	2	救急救命処置を受ける子どもと家族への看護			講義
10	2	検査や処置を受ける子どもと家族への看護			講義
11	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			講義
12	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			GW
13	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護			発表
14	2	終末期にある子どもと家族への看護			講義
15	2	終末期にある子どもと家族への看護の実際			講義

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位（時間）	1（30）	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 小児病棟で実務経験のある教員がその経験を生かし、実践的な事例を含めた講義を行っている。					
≪科目目標≫ 小児の特徴的な健康障害を取り上げ、子どもの基本的特性に応じた症状のアセスメントや必要な看護が理解できる。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・課題					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ 課題学習を行う					
≪履修に当たっての留意点≫ 積極的にGWに参加できるように、準備して授業に参加する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	ハイリスク新生児と家族への看護			講義
2	2				
3	2	外来における子どもと家族への看護			講義
4	2	健康障害をもつ子ども・家族へのアセスメント 事例①急性胃腸炎			GW
5	2	事例②川崎病			GW
6	2				
7	2				
8	2	事例③気管支喘息			GW
9	2				
10	2				
11	2	事例④ネフローゼ症候群			GW
12	2				
13	2	子どもの安全を守るために必要な看護（KYT）			講義・GW
14	2				

15	2	新生児人形を用いて身体計測 モデル人形を用いて心拍数・呼吸数測定 保育器の取り扱い	演習
----	---	---	----

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かした講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：母性についてその特徴を捉え、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス／ライツの視点から、社会における母性看護の現状とその役割、今後の課題を理解する。</p> <p>学習目標：1. 母性看護の基盤となる概念を理解する。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。 3. 母性看護の役割、法的責任と倫理について理解する。 4. 女性のライフステージ各期の健康問題と看護について理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 公衆衛生がみえる メディックメディア</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	母性看護の中心概念①			講義
2	2	母性看護の中心概念②			講義
3	2	母性看護実践を支える概念			講義
4	2	リプロダクティブヘルス／ライツ			講義
5	2	セクシュアリティ			講義
6	2	リプロダクティブヘルスに関する統計			講義
7	2	リプロダクティブヘルスに関する法と制度①			講義
8	2	リプロダクティブヘルスに関する法と制度②			講義
9	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（思春期）①			講義
10	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（思春期）②			講義
11	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（成熟期）			講義
12	2	女性のライフステージ各期の健康問題と看護（更年期・老年期）			講義
13	2	リプロダクティブヘルス／ライツに関する課題①			講義
14	2	リプロダクティブヘルス／ライツに関する課題②			講義

15	2	リプロダクティブヘルス/ライツに関する課題③	講義
----	---	------------------------	----

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：妊娠の正常な経過ならびに正常を逸脱した妊娠の経過とその援助方法を学ぶ 分娩の正常な経過ならびに正常を逸脱した分娩の経過とその援助方法を学ぶ 学習目標：1. 正常な妊娠経過とその援助方法を理解する 2. 正常を逸脱した妊娠とその援助方法を理解する 3. 正常な分娩経過とその援助方法を理解する 4. 正常を逸脱した分娩とその援助方法を理解する 5. ウェルネス志向での看護過程を理解する					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験、レポート					
<b>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</b> ①ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ②ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版 ③ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習・妊娠期の事例のアセスメントを実施する					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	妊娠・出産の現状とサポート、妊娠の定義・成立			講義
2	2	妊娠による妊婦・家族への影響、妊婦健診			講義
3	2	妊婦体験、妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助①			講義・演習
4	2	妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助②			講義
5	2	妊娠期の身体的・心理的・社会的変化とその援助③			講義
6	2	妊娠期の看護過程① (事例のアセスメント)			講義
7	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法①			講義
8	2	正常を逸脱した妊娠とその援助方法②			講義
9	2	正常な分娩① (分娩の定義、分娩の3要素、分娩経過)			講義
10	2	正常な分娩② (分娩による母体・胎児への影響、心理的变化)			講義
11	2	正常な分娩③ (家族の心理的变化)、分娩期の援助①			講義
12	2	分娩期の援助②			講義
13	2	妊娠期の看護過程② (看護を考える)			演習
14	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法①			講義

15	2	正常を逸脱した分娩とその援助方法②	講義
----	---	-------------------	----

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：正常な産褥および正常を逸脱した産褥への援助方法を理解する。 正常な新生児および正常を逸脱した新生児への援助方法を理解する。 学習目標：1. 正常な産褥経過とその援助方法を理解する。 2. 正常を逸脱した産褥とその援助方法を理解する。 3. 新生児の特徴と生理的変化およびその援助方法を理解する。 4. 正常を逸脱した新生児とその援助方法を理解する。 5. ウェルネス志向での母性看護過程について理解する。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習、課題学習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 事例のアセスメントについては、必ず事前課題に取り組んで講義に臨むこと。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	出生直後の胎外生活適応過程と看護			講義
2	2	胎外生活適応過程を促進するための看護			講義
3	2	正常を逸脱した新生児の看護			講義
4	2	出生直後の新生児のアセスメント			講義
5	2	正常な新生児のアセスメント			講義
6	2	全身の回復過程とその援助方法			講義
7	2	生殖器の復古とその援助方法			講義
8	2	母乳分泌のメカニズムと母乳育児支援			講義
9	2	親役割獲得過程とその援助方法			講義
10	2	全身の回復と生殖器の復古のアセスメント			講義
11	2	母乳育児のアセスメント			講義
12	2	親役割獲得過程のアセスメント			講義
13	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント①			講義

14	2	産褥期に影響を及ぼす妊娠・分娩経過のアセスメント②	講義
15	2	正常を逸脱した褥婦への看護	講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護の方法Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>産科病棟を有する病院で助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的： 1. 産褥・新生児期にある母子とその家族への看護を理解する。 2. 母性看護で必要な看護技術を修得する。</p> <p>学習目標： 1. 母子相互作用に着目し、ウェルネス志向での母子に対する看護を理解する。 2. 妊婦、褥婦に必要な看護技術を理解する。 3. 新生児への援助に必要な看護技術を修得する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験、レポート、実技試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習、課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事例を用いた看護過程は母性看護の方法Ⅱで用いた事例を使用するため、復習を行って講義に臨むこと。</p> <p>看護技術は母性看護の方法Ⅰ・Ⅱで学習しているため、復習を行って演習に臨むこと。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	産褥・新生児期にある母子とその家族の看護の特徴 (母子を一組の対象者として捉える、母子相互作用)			講義・演習
2	2	沐浴・寝衣交換・オムツ交換 妊婦への援助技術 (腹囲・子宮底測定、浮腫の観察、レオポルド触診法)			
3	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出①			講義・演習
4	2	褥婦への援助技術(子宮復古の観察、産褥体操、授乳)			演習
5	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出②			演習
6	2	沐浴			技術試験
7	2	正常な褥婦・新生児の必要な看護の抽出③			講義
8	1				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護学概論 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float:right"><b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/></span> 臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 学習目的：精神看護の基本となる人間理解を目的として、人格の発達過程、人の心理・行動特性を理解し、健康な生き方とは何かについて考える。 学習目標：心の健康とは何かを理解し、心の発達過程について説明できる。心の健康に影響を及ぼす要因と対処法について説明できる。現代家族の特徴、核家族の機能と役割について説明できる。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メデイカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけながら講義に臨めるようにする					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 講義で伝えた内容を学生が理解できているか、確認しながら進める 精神科看護とは何かを考え、自分の言葉で人に伝えられるよう、GWなどを取り入れる					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 精神障害についての基本的な考え方			講義
2	2				講義・演習
3	2	2. 人間のこころと行動			講義
4	2	3. 人格の発達と情緒体験			講義・演習
5	2	4. 人生各期の発達課題 ライフサイクルとメンタルヘルス 胎児期から老年期			講義
6	2				講義
7	2				講義・演習
8	2				講義・演習
9	2	5. 現代社会とこころ 1) 現代社会の特徴			講義
10	2				2) 現代社会とこころの問題 3) 現代社会における家族関係
11	2	6. ストレスに対する身体的反応—心身症 事例から関りを考える			講義
12	2				講義・演習
13	2	7. 家族とその支援 事例から関りを考える			講義
14	2				講義・演習

15	2	8. 精神保健医療福祉をめぐる法律	講義
----	---	-------------------	----

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護学概論Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 病院勤務経験のある教員が担当している。					
≪科目目標≫ 学習目的：精神看護の対象を理解し、患者－看護師関係について学ぶ。また、現代社会の中で起きてくる心の健康問題および精神保健制度について理解する。 学習目標：1. 精神看護における患者－看護師関係について理解する。 2. 社会環境の変化と心の健康問題について理解する。 3. 精神医療・看護の歴史の変遷について理解する。 4. 今日の精神保健制度と今後の課題について理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社 はじめての精神科看護 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ グループワーク					
≪履修に当たっての留意点≫ 対象の生きにくさを対象の立場に立った視点で考えていくことの大切さを知ってほしい。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	精神障害について：現代社会とところの問題から考える			講義
2	2	患者 - 看護師関係			演習
3	2	信頼関係を築くためのコミュニケーション技術			講義
4	2	精神科看護におけるコミュニケーションの実際			講義
5	2	かかわりで生じる感情			講義
6	2	関係をアセスメントする：プロセスレコード			講義
7	2	プロセスレコードの展開			講義
8	2	プロセスレコードの演習			演習
9	2	看護師のストレスマネジメント			講義
10	2	精神医療・看護の歴史の変遷			講義
11	2	精神保健医療福祉に関わる法制度と今日の課題			講義
12	2	精神保健福祉法の理解			講義
13	2	地域生活を支える社会資源の活用：障害者総合支援法			講義

14	2	社会資源の活用を考える	演習
15	2	精神障害者のリカバリーを支援する取り組みと今後の課題	講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法Ⅰ (疾患)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (8/30)	開講時期	2 年前期
担当教員： 非常勤講師					
<p>《科目目標》</p> <p>精神が障害された人を理解するための基礎的知識として、障害の分類と精神障害の病態・検査・治療について学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メデイカ出版</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	統合失調症			講義
2	2	気分障害 (うつ病、双極性障害)			講義
3	2	認知症、せん妄、てんかん、依存			講義
4	2	パーソナリティ障害、摂食障害、発達障害、PTSD			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法 I (看護)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (22/30)	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>臨床・看護教員として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>学習目的：精神科の看護領域で見られる精神病状態像にある人への看護について理解する</p> <p>学習目標：1. 精神が障害された人を理解するための基礎知識を身に付ける 2. 精神障害を持つ人への身体ケアについて学ぶ</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 パーフェクト臨床実習ガイド精神看護 照林社 はじめての精神科看護 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>DVD を各自視聴するなどし、イメージをつけて講義に臨むことができる</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>対象について何故そう考えるのかと学生が考え、考えを共有できるように、グループワークや発表の機会を作る</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 精神科での治療と看護			講義
2	2	1) 薬物療法 2) 精神療法 3) リハビリテーション			講義
3	2	2. 精神科看護におけるケアの方法			講義
4	2				講義
5	2	3. 入院環境と治療的アプローチ			講義
6	2	4. 精神科看護におけるリスクマネジメント			講義
7	2	5. ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割			講義
8	2	6. 精神科看護の領域でみられる状態と看護			講義
9	2	1) 抑うつ障害と双極性障害 2) 統合失調症			講義・GW
10	2	3) 不安障害・迫性障害 4) 依存・パーソナリティ障害			講義・GW
11	2				講義・発表

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護の方法Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 病院勤務経験のある教員が担当している。					
≪科目目標≫ 学習目的：セルフケア理論を用いて精神障害者の生活する力をアセスメントし、看護を過程する方法を学ぶ。 学習目標：セルフケア理論を理解し、事例を通して紙面上での看護を展開する。					
≪成績評価の方法≫ グループワークによるレポート・筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社 はじめての精神科看護, メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫ グループワーク					
≪履修に当たっての留意点≫ 実習の実際の記録を使用して紙上事例を展開していきながら患者とのかかわりがイメージできるといい。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. セルフケア理論ーオレム・アンダーウッド理論			講義
2	2	2. 患者ー看護師関係の理論			講義
3	2	3. セルフケア理論を用いた看護過程の展開方法			講義
4	2	4. 統合失調症の事例を用いた看護の展開 1) 情報収集(基本的条件づけの要因)			講義・演習
5	2	2) 精神状態の査定			講義・演習
6	2	3) アセスメント(普遍的セルフケア要件)			講義・演習
7	2	4) 看護の方向性から看護計画立案と全体像の把握			講義・演習
8	1	5. 患者とのコミュニケーションのポイント: DVD より			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合 I (医療安全)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	3 年後期
担当教員： 非常勤講師					
<<科目目標>> 医療事故が起こる過程とそれを防止する対策を理解する					
<<成績評価の方法>> 筆記試験					
<<使用教材(教科書)及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	医療安全と看護の理念			講義
2	2	医療安全への取り組みと医療の質の評価			講義
3	2	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント			講義
4	2	看護業務に関連する事故と安全対策①			講義
5	2	看護業務に関連する事項を安全対策②			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合 I (看護管理・看護倫理)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位 (時間)	1 (20/30)	開講時期	3 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<<科目目標>> 学習目標 1. 医療を取り巻く社会環境の変化と、そこにおける看護の位置づけを学ぶと共に、チーム医療及び多職種との協働の中でメンバーシップ、リーダーシップを理解する。 2. 看護における倫理の必要性について学ぶ。 3. 看護倫理に関する基本的知識を理解する。 4. 事例分析を通して、適切で倫理的な意思決定と行動について学ぶ。					
<<成績評価の方法>> 筆記試験・レポート					
<<使用教材 (教科書) 及び参考図書>> ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護管理① 社会の変化と看護師の役割、協働、リーダーシップ			講義
2	2	看護管理② 看護マネジメント			講義
3	2	看護管理③ 組織で取り組む看護活動 看護の質向上のための取り組み、看護と経営			講義
4	2	看護管理④ 業務マネジメント、セルフマネジメント			講義
5	2	看護管理⑤ 看護専門職とキャリア 看護現場に影響を与える制度と法律			講義
6	2	授業ガイダンス			講義・演習
7	2	患者権利宣言、倫理とは、倫理的行動とは、看護職の倫理綱領			
8	2	看護倫理の実践とは			講義・演習
9	2	事例分析①、②、③			
10	2	まとめ			講義

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護総合Ⅱ (国際・災害看護)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	3 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 1. 国際的にどのような健康問題が課題になっているかを理解し、国際看護の基本理念を理解し、その方法を考える。 2. 災害が生活に及ぼす影響を理解し、災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験・レポート					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践④ 国際化と看護 メディカ出版					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫ 日頃起こっている災害から思うことや自身の考えを持ちながら授業に臨んでほしい					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	災害看護学の定義・災害の種類と健康被害・災害と倫理			講義
2	1	災害医療に関する国の政策・災害医療に関する法律			講義
3	2	災害医療活動の特徴			講義・演習
4	2	配慮を必要とする人への看護			講義・演習
5	2	被災者と支援者の心理の理解と援助			講義・演習
6	2	防災・減災マネジメント			講義・演習
7	2	国際看護学の定義・グローバルヘルス			講義
8	2	国際協力のしくみ・開発協力と看護の実際			講義・演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護研究演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	3 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	3 年全期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護研究実績の経験をもとに、看護研究の意義から研究の発表までを教授している。					
<<科目目標>> 実践した看護の中から課題を見出し、ケーススタディとしてまとめる。この過程を通して、文献の活用、倫理的配慮、科学的・論理的なものの見方や考え方を学び、自己の看護観を深め、研究の基礎能力を身につける。					
<<成績評価の方法>> 論文・発表に対する看護研究演習評価表（ルーブリック）に基づいて評価する					
<<使用教材（教科書）及び参考図書>> はじめて学ぶケーススタディ 総合医学社 ナーシンググラフィカ 基礎看護学④ 看護研究					
<<授業外における学習方法>>					
<<履修に当たっての留意点>>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	1. 看護研究の意義と目的 2. 研究の種類及び方法			講義
2	2	3. 看護研究のプロセス 4. 研究計画書の作成 5. 文献検索について			講義・演習
3	2	ケース論文のまとめ方			講義
4	2	ビジョン・ゴールシートの作成、ケース計画書の作成			演習
5	2	6. 研究の実際 1) ケーススタディの完成 2) 抄録の作成 3) スライドによる発表準備			講義・演習
6	2	4) ケーススタディの発表・講評			演習
7	2				
8	2				
9	2				
10	2				
11	2				
12	2				
13	2				
14	2				
15	2				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	総合演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し講義を行っている					
≪科目目標≫ 看護を統合的にとらえ、臨床判断能力、自己学習力を培い、自らの課題を明らかにする。シミュレーションの経験を通して、学習者が振り返り、検証することによって専門的な知識・技術・態度の統合を図る。学習者同士の情報の共有・協力・調整する力を身につける。					
≪成績評価の方法≫ 課題の評価表（ルーブリック）に基づき評価する					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 動画による事例					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫ 事前学習を十分に行って授業に臨む					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	オリエンテーション 事例1：高血圧症患者の意識障害 ・場面①からの気づき			講義 演習
2	2	・場面①から必要な観察と対処 ・場面②の看護師の行動を意味づける			演習
3	2	・場面②から疑われる病態、検査・治療を予測する			演習
4	2	・場面③から疾患・検査・治療を理解する			演習
5	2	事例2：COPD 患者の呼吸困難 ・場面①②からの気づき			演習
6	2	・場面①②から必要な観察と対処 ・病態を理解し、看護師の行動を意味づける ・場面③から病態理解と検査・治療を予測する			演習
7	2	・場面④から治療を理解する			演習
8	2	事例3：胃切除術後1日目 ・対象の状況を予期する ・術後1日目の行動計画を組み立てる			演習
9	2	・訪室前・訪室時にどのような情報を得るか			演習
10	2	・シミュレーション1回目			演習

11	2	・シミュレーションの振り返り（気づき・解釈・反応・省察）①	
12	2	・シミュレーションの振り返り（気づき・解釈・反応・省察）②	演習
13	2	・シミュレーション2回目	演習
14	2	・シミュレーションの振り返り（気づき・解釈・反応・省察） ・術後1日目の行動計画修正①	
15	2	・術後1日目の行動計画修正② まとめ	演習

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float: right;"><b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師としての実務経験と看護教員としての経験を活かし、看護職の役割と機能について教授している。					
<b>《科目目標》</b> 実習目的：講義で学んだ看護の機能や基礎看護技術の知識・技術やその考え方を基に、病院における看護師の役割を理解する。また患者の療養生活環境を知り、患者とのコミュニケーションや援助を通して、看護師として大切にしたいことを考える。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する。					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習、課題学習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	1 学年 9 月～10 月				
<b>時間数</b>	合計 45 時間				
<b>実習内容</b>	1. 病院における看護師の役割を考える 2. コミュニケーション技術を意識して、患者と関わる 3. 患者の状態に合わせた援助がどのように実施されているか学び、患者の思いを考え援助する 4. 看護について考えたことをまとめる 5. 看護者として望ましい態度は何かを考え、行動する				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として看護業務に携わった教員が教授している。					
<b>《科目目標》</b> 基礎看護学の講義で学んだ知識・技術・態度を活かし、マージョリー・ゴードンの機能的健康パターンの考えに基づき、患者の全体像を捉える。入院という特殊な生活環境下の患者にとって、必要な日常生活援助を提供する。実施した援助の中で得た気づきや患者に与える影響を振り返ることで、「よりよい看護」を目指す。臨地実習を通じた学びから、患者の個別性や自己の看護を考える機会とする。さらに、信頼される専門職として、主体的に学ぶ姿勢や望ましい態度を身につける。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する。					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> 人体の構造と機能・疾病と治療・薬理学・基礎看護技術などの講義で使用した教科書 参考書・資料					
<b>《授業外における学習方法》</b> 実習に関連する講義の内容を振り返り、理解する。 基礎看護技術の講義で既習している看護技術は、積極的に練習する。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 実習オリエンテーションの内容について理解し、主体的に実習に臨む。 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につけられる機会となるため、実習に参加できるよう健康管理に留意し臨む。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	1 学年 1 月				
<b>時間数</b>	合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 患者を身体的・精神的・社会的な側面から捉え、健康上の問題を導き出す。 2. 患者の状態に応じた看護計画を立案できる。 3. 患者の健康状態を観察し、患者に必要な援助を実施する。 4. 看護実践の成果を評価し、看護計画の修正ができる。 5. 看護の考えや気づきを述べる。 6. 看護学生として、信頼されるよう望ましい姿勢で行動する。				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域・在宅看護論実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
≪科目目標≫ 地域の特性と生活の視点から地域で生活するあらゆる年齢の人と支援から地域全体をとらえる力を身につけ、フォーマル・インフォーマルな社会資源について学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表 (ルーブリック) に基づき評価する。					
≪使用教材 (教科書) 及び参考図書≫ 授業で使用した教科書、資料等					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習、課題学習を行う					
≪履修に当たっての留意点≫ 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
<b>実習プログラム</b>					
実習期間	1 学年後期				
時間数	合計 45 時間				
実習内容	1. 地域の特性を理解する 2. 地域で生活する人の暮らしとフォーマルな社会資源・インフォーマルな社会資源について理解する 3. 実習で体験したことを振り返り、地域で生活する人と暮らしを理解する 4. 看護学生として責任ある行動がとれる				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年全期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
≪科目目標≫ 地域で生活する人に対する地域保健活動と地域で療養する人への看護実践を通して、看護師としての思考力、判断力の基礎的能力を養う。地域包括ケアシステムの一員として看護の役割を理解し、多職種と協働し地域と連携する力を身につける					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する。					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫ 授業で使用した教科書、資料等					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習、課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
<b>実習プログラム</b>					
実習期間	3学年5月～11月				
時間数	合計90時間				
実習内容	1. 地域で生活する人々の健康回復・保持・増進、疾病予防のための地域保健活動を理解する 2. 在宅で生活する療養者と家族を生活の主体者として理解する 3. 健康障害を持ちながら在宅で生活する療養者への支援を理解する 4. 在宅介護の維持・向上に必要な家族に対する生活支援を理解する 5. 地域包括ケアシステムの機能について理解する 6. 訪問看護のあり方を考察する 7. 看護者としての適切な態度を身につける				

令和7年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2学年	単位(時間)	2(90)	開講時期	2年後期
担当教員：専任教員		実務経験のある教員による授業			☑
老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<p>《科目目標》</p> <p>地域で暮らす高齢者との関わりを通して、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶとともに、予防的な視点を持ちながら高齢者が持てる力を発揮し、生き生きと暮らしていけるための知識・技術・態度を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>授業で使用した教科書、資料等</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>実習に関わる講義の内容を理解しておく。 加齢変化の特徴や高齢者の生きてきた時代背景について授業資料や文献を活用し、理解を深めておく。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>複数の施設で学ぶことができる機会である為、体調を整え、主体的に参加する姿勢を持つ。</p>					
<b>実習プログラム</b>					
実習期間	2学年後期				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険施設で生活する高齢者の身体面、心理面、社会面の特徴と看護を理解する。</li> <li>2. 介護保険施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>3. 予防の視点を持ち、施設入居者の生活機能に合わせた看護を実践する。</li> <li>4. 自宅から通所施設に通う高齢者の特徴を理解する。</li> <li>5. 通所施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>6. 予防の視点を持ち、通所施設利用者個々の状況を考えた看護を実践する。</li> <li>7. グループホームの機能と役割、多職種との連携を理解する。</li> <li>8. 認知症高齢者の特徴と看護を理解する。</li> <li>9. 高齢者における看護のあり方について考察する。</li> </ol>				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	2 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
<b>《科目目標》</b> 成人・老年期の対象の特徴を踏まえ、様々な健康レベルにあり治療の場に入院する対象の全人的理解に努める。また、既習の慢性期・回復期・終末期の経過別看護やがん看護の視点をもって、問題解決のための過程を理解する。既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を実践し、評価することを学ぶ。 上記の学習を学生間で協力して学び、実習メンバー間の情報の共有や協調・協力できる力を養う機会とする。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> 各講義で使用した教科書や配布資料					
<b>《授業外における学習方法》</b> 対象の病期の看護の特徴について授業内容を復習すること					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間 時間数</b>	2 学年後期 合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 成人・老年期にある対象とその家族を理解する 2. 対象の健康状態やセルフケア能力に応じた支援・援助を行う 3. 対象および家族を支える看護師と他職種の役割、多職種連携について考える 4. 対象への看護を通して自己の看護観を養う 5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<b>《科目目標》</b> 実習目的：入院している対象を全人的にとらえ、健康上の課題を明らかにし、その人のもてる力を見出す思考を育て、看護実践能力を身につける。 また、継続看護の必要性とそれを支える多様な職種を理解する。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表（評価基準表）に基づき評価する。					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 他					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習、課題学習を行う。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	3学年 5月～7月				
<b>時間数</b>	合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 加齢変化、疾病・治療の状況を把握し、生活への影響を捉える 2. 患者及び家族の意向・生活に焦点を当てた目標設定をする 3. 対象のもてる力が引き出されるような看護を実践をする 4. 高齢者の生活と健康を支える多様な職種を理解する 5. 自分の老年看護観を持つ 6. 看護専門職者として望ましい態度を身につける				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位 (時間)	2 (90)	開講時期	3 年全期
<b>担当教員：</b> 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
<b>《科目目標》</b> 1. 周手術期にある対象の全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立へと援助するための基礎的知識・技術・態度を養う 2. ICU・ERICUにおける対象の特徴と看護の実際を知り、生命の危機的状況にある人を支える看護師の役割について考える。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する。					
<b>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</b> 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1, 2, 3 : 医歯薬出版					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習、技術練習を行う					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 1. 提示された事前課題に積極的に取り組み、実習に活用できるように理解する。 2. 事前学習をもとに、患者の個別性が理解できるように実習記録に積極的に取り組む。 3. 患者の術後経過に応じ、異常の早期発見・合併症の予防ができるよう必要な看護について考え実践する。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	3 学年 5 月～11 月				
<b>時間数</b>	合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 周手術期にある患者とその家族の心理状態を理解する。 2. 患者の病態および治療方法を理解し看護の方向性がわかる 3. その人らしさを考えながら、全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立に向けての支援を実施できる 4. 周手術期における多職種連携を理解する 5. 周手術期にある人を支える看護師の役割を考えることができる 6. ICU・ERICU での看護師の役割を理解する 7. 看護者にとって必要な態度を身につける				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	小児看護学実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3 年全期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
小児看護業務に携わった教員が教授している					
<p>《科目目標》</p> <p>子どもの成長発達段階の特徴を理解した上で、個々の健康状態に応じて、子どもと家族が生き生きと生活できるように支援するための基礎的な能力を養い、子どもの最善の利益を守る看護について考えることができる</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習・事前準備を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>プロジェクト学習を取り入れています。自ら目標をもち、課題を解決するために何を準備したらよいかを考え、主体的に臨んでください</p> <p>臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください</p>					
<b>実習プログラム</b>					
実習期間	3 学年 5 月～12 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な乳幼児の成長と発達に応じた支援の実際を知る</li> <li>2. 患児の成長発達と患児を取り巻く環境を理解し、患児と家族を尊重したかわりを行う</li> <li>3. 患児の健康状態を理解し、病状に応じた必要な看護について考える</li> <li>4. 子どもの安全を守るために必要な看護を実践する</li> <li>5. 小児看護における看護師の役割について述べる</li> <li>6. ハイリスク新生児の特徴と NICU（新生児センター）での看護の実際を知る</li> </ol>				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	母性看護学実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3 年全期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 周産期看護業務に携わった教員及び臨床助産師が教授している。					
≪科目目標≫ 正常な妊娠・分娩・産褥および新生児期の対象に適した看護援助を学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習、課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
<b>実習プログラム</b>					
実習期間	3 学年 5 月～12 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 妊婦の特徴と看護を理解する 2. 産婦の特徴および分娩の経過と看護を理解する 3. 褥婦・新生児の特徴を理解し、看護を実践する 4. 母性看護における看護師の役割を理解する				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護学実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 精神看護学業務に携わった教員が教授している					
≪科目目標≫ 精神に障害を持つ人の治療環境・患者 - 看護師関係における治療的関りを体験を通して学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
実習プログラム					
実習期間	3 学年 5 月～7 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 精神に障害を持つ人の治療環境を理解する 2. 精神に障害を持つ人との患者 - 看護師関係における治療的な関りを体験を通して学ぶ 3. 精神に障害を持つ人を理解し、必要な看護を考察することができる 4. 精神保健活動における看護師の役割と社会復帰の現状について理解できる 5. 看護者として、責任ある行動がとれる				

令和7年度 授業計画 (シラバス)

科目名	総合実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	3 (135)	開講時期	3 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
病棟での看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
<p>《科目目標》</p> <p>総合実習では、これまでの3年間の学びを統合しチームで看護を実践する。卒業後、看護専門職として働くイメージを持てるよう、複数受け持ち患者・同行・夜間・管理実習を行う。実習を通して、優先順位の考え方、多重課題への対応、リーダーシップ・メンバーシップ、多職種連携について学ぶ。そして、看護の場면을リフレクションし自己の課題を明らかにし、目指す看護について考える機会とする。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ 看護管理 メディカ出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>実習する病棟の特徴を理解し、疾患・看護の事前学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>チームで取り組む実習であるため、グループでコミュニケーションを密に行い、情報の共有を図っていく。</p>					
<b>実習プログラム</b>					
実習期間	3 学年 10 月～12 月				
時間数	合計 135 時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで複数患者を受け持ち、患者の1日の生活リズムを考えながら、病態、治療を踏まえ、退院後を見据えた看護計画を立案し、計画的に援助を行う。 (複数受け持ちの看護実践)</li> <li>2. 看護実践における現象からリフレクション(気づき・解釈・反応・省察)し、自己の看護実践について考え、判断していく能力を高めていく。(臨床判断の能力)</li> <li>3. 学生のチーム内でリーダー・メンバーを行い、それぞれの役割を果たしながら看護を実施する。</li> <li>4. 同行・夜間実習からチーム内でのリーダーシップ・メンバーシップの実際や多職種連携の実際を学ぶ。(チーム看護・多職種連携)</li> <li>5. 看護管理について病棟師長から部署の管理者として他部門との連携・調整の実際について話を聞き学ぶ。(看護管理)</li> <li>6. 実習の学びから自分の看護実践について考える。(専門職としての自覚と責任)</li> </ol>				